

2010年度 事業報告書

学校法人 神戸女学院





学校法人 神戸女学院
理事長・院長 森 孝一

はじめに

神戸女学院は今年、創立136年を迎えます。自由を愛し、民主的な組織運営を尊重するアメリカ・プロテスタント教会の一教派である会衆派教会の海外宣教組織「アメリカン・ボード」によって、1875年（明治8年）に、神戸に設立されました。

高等教育機関となった神戸女学院は、1933年（昭和8年）に現在のキャンパスである西宮市岡田山に移転いたしました。国の「登録有形文化財」に登録されたヴォーリズ設計による校舎群と、岡田山の豊かな自然は、本学院の貴重な財産であるだけでなく、キャンパス自体が情操教育のための資産となっています。

神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」は、本学院の教育目標を表現しています。キリスト教を基本とする人格教育と情操教育を教育の中心に置き、獲得した知識や技術を、自分のために用いるだけでなく、社会、国家、世界のために貢献することのできる人材を養成すること。これが神戸女学院の教育目標です。

2011年度の事業計画として、教育・研究については、大学の人間科学部心理・行動科学科の入学定員を80名から90名に増員いたしました。また、文学部総合文化学科の定員180名を200名に増員する申請を行います。そして、大学教育の質を高め保証するために質保証運営体制を整備し、学長のもとに企画評価会議を設置し、各学部・学科をはじめとする各部署における教育の質保証のための方策を検討し実施いたします。

施設・設備面では、環境・バイオサイエンス学科の教育実験施設を備えたメアリー・アンナ・ホルブルック記念館の建設を行います。また、施設・設備の長期整備計画に基づく校舎の耐震化、防火設備の整備を順次実施してまいります。

今後も神戸女学院に対しまして、皆さまのより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

I. 法人の概要

1	建学の理念・教育目標	1
2	設置学校・学部・学科等	1
3	校地・校舎	2
4	入学定員・収容定員・在籍者数	4
5	役員・評議員に関する事	6
6	教職員数等に関する事	7
7	法人の沿革	9

II. 事業の概要

1	大学総括	11
2	ミッションステートメントと3つの基本ポリシー	12
3	中高部総括	14
4	教育・研究	15
5	高大連携	21
6	地域貢献	23
7	その他の事業	26
8	施設・設備	28
9	入試に関する状況	29
10	留学に関する状況	32
11	卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況	35
12	就職・進学状況等	36

III. 財務の概要

1	2010年度決算の概要	39
2	資金収支計算書	39
3	消費収支計算書	42
4	貸借対照表	46
5	財務データの推移	48

IV. 事業計画

1	今後の運営方針及び2011年度予算編成について	51
2	2011年度事業計画	51
3	2011年度予算書	53

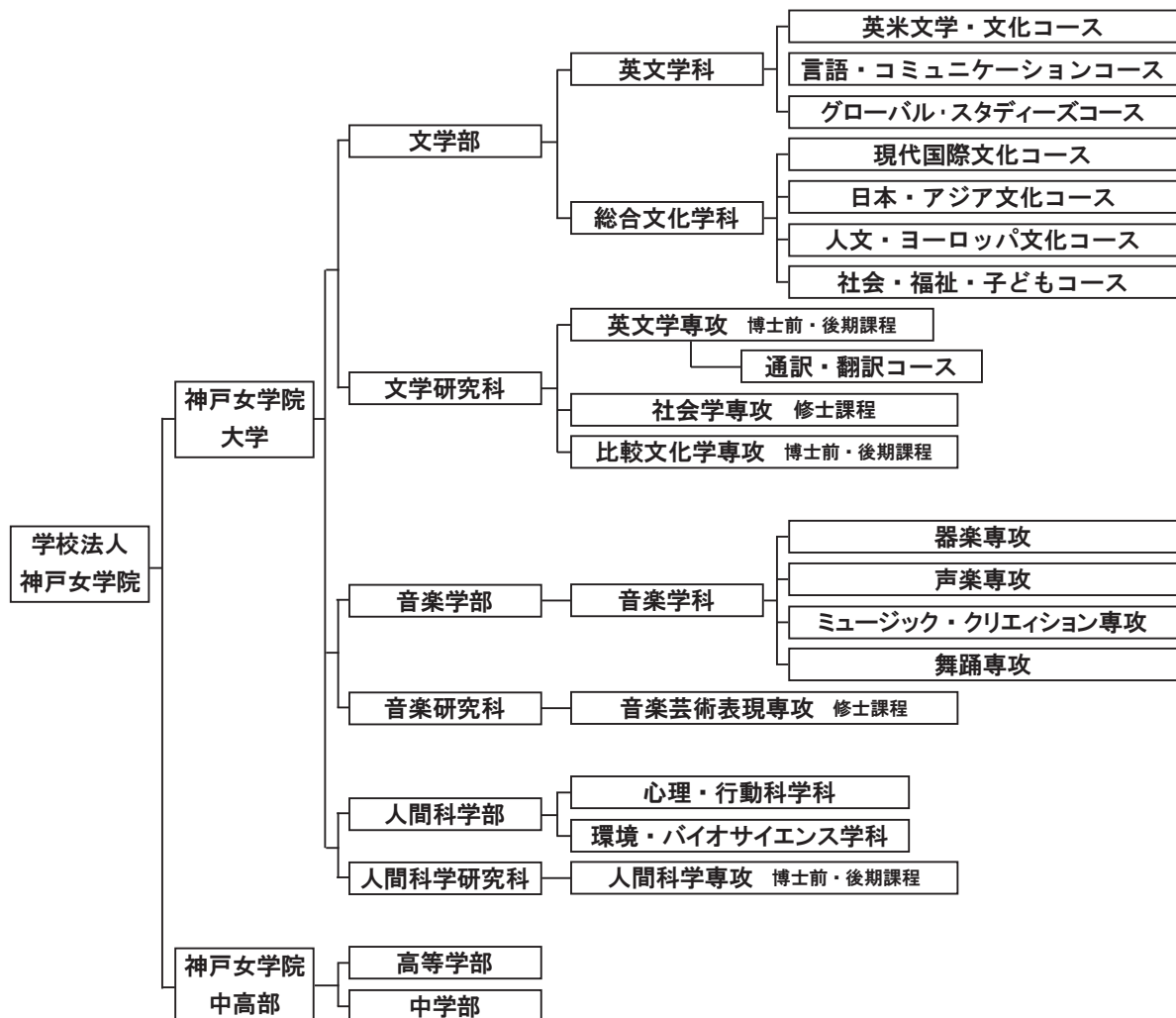
I. 法人の概要

1 建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治8年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立された。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成であった。以来135年、高い教養と専門的知識、

広い視野と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきた。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っている。

2 設置学校・学部・学科等

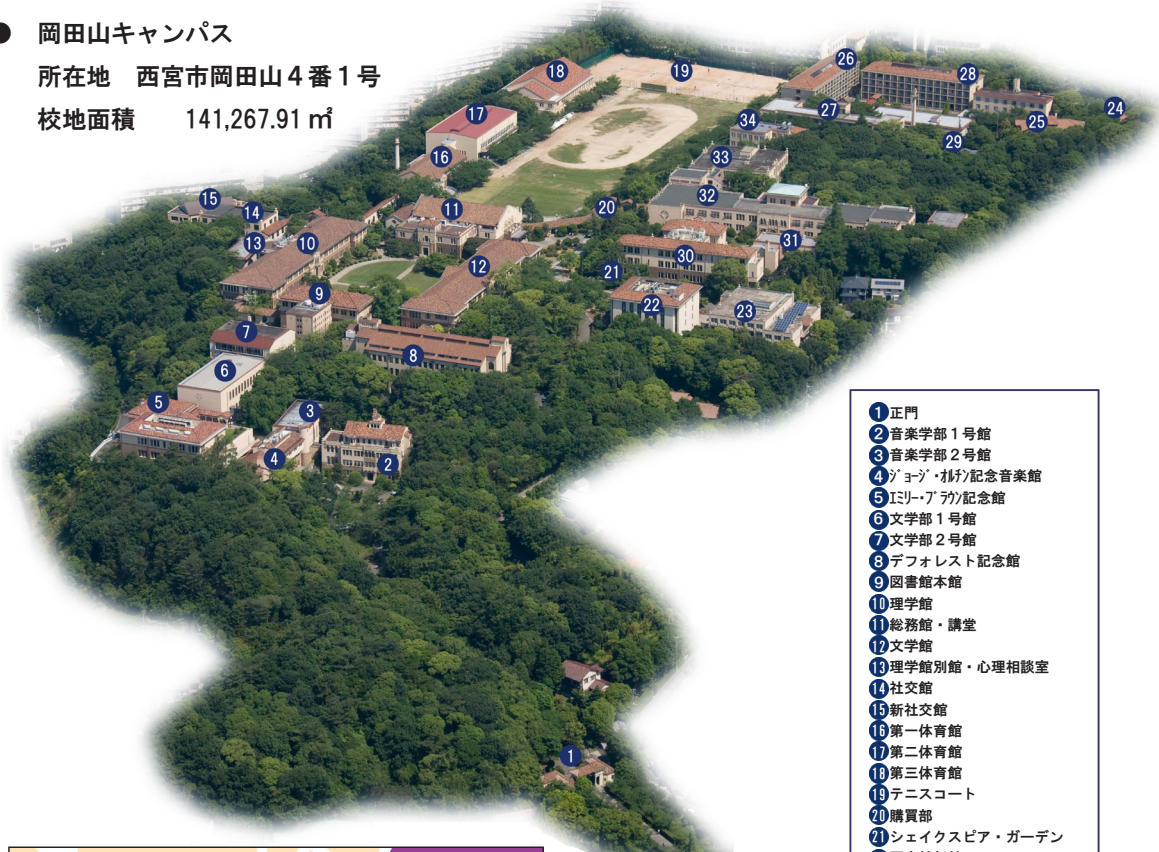


3 校地・校舎

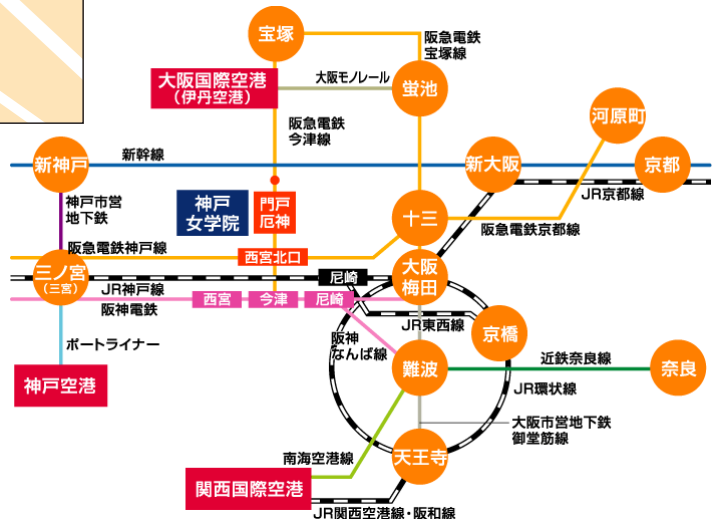
● 岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 141,267.91㎡



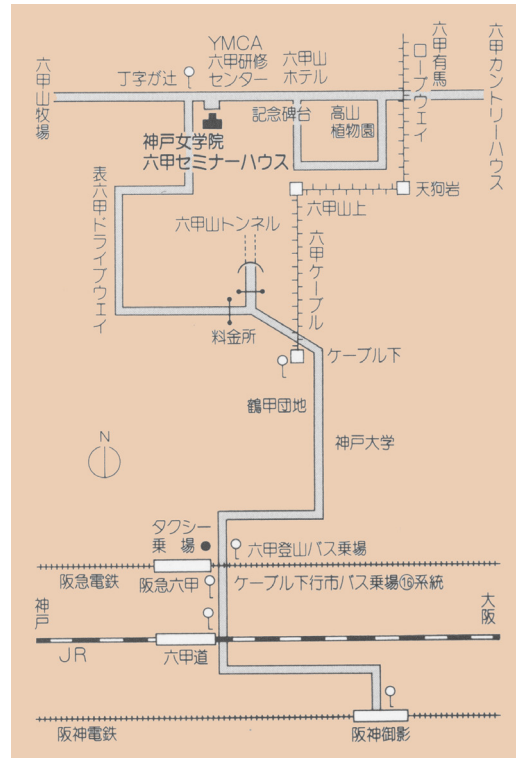
- ① 正門
- ② 音楽学部 1号館
- ③ 音楽学部 2号館
- ④ ジョージ・リッパ記念音楽館
- ⑤ エミリー・アラウ記念館
- ⑥ 文学部 1号館
- ⑦ 文学部 2号館
- ⑧ デフォレスト記念館
- ⑨ 図書館本館
- ⑩ 理学館
- ⑪ 総務館・講堂
- ⑫ 文学館
- ⑬ 理学館別館・心理相談室
- ⑭ 社交館
- ⑮ 新社交館
- ⑯ 第一体育館
- ⑰ 第二体育館
- ⑱ 第三体育館
- ⑲ テニスコート
- ⑳ 購買部
- ㉑ シェイクスピア・ガーデン
- ㉒ 図書館新館
- ㉓ ジュリア・ガッレ記念館
- ㉔ エッジウッド館(研究室)
- ㉕ ケンウッド館
- ㉖ マリア・アト・グレイ・スノウ学生寮
- ㉗ 岡田山ロッジ
- ㉘ 大学カウパ-館(クアパ)
- ㉙ 茶室(松風庵)
- ㉚ アンジー・クルー記念館
- ㉛ コミュニケーションセンター
- ㉜ 中高部 1号館・2号館
- ㉝ タルカット記念館
- ㉞ めぐみ会館(同窓会館)



● 六甲セミナーハウス

所在地 神戸市灘区六甲山町1043-8

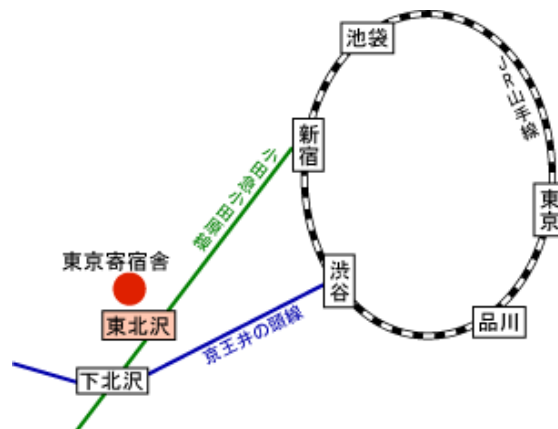
敷地面積 1,501.65 m²



● 東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8-7

敷地面積 367.46 m²



4 入学定員・収容定員・在籍者数

2010年5月1日現在

●神戸女学院大学		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学部					
英文学科		140名	172名	560名	734名
総合文化学科		180名	237名	720名	945名
	計	320名	409名	1,280名	1,679名
音楽学部					
音楽学科		47名	54名	188名	211名
人間科学部(2005年度から次の2学科に改組)					
心理・行動科学科		80名	102名	320名	406名
環境・バイオサイエンス学科※		80名	86名	300名	365名
	計	160名	188名	620名	771名
人間科学部人間科学科(2005年度学生募集停止)					
人間行動科学専攻		—	—	—	1名
人間環境科学専攻		—	—	—	0名
	計	—	—	—	1名
	大学 計	527名	651名	2,088名	2,662名

※2009年度より環境・バイオサイエンス学科の入学定員を70名から80名に増員

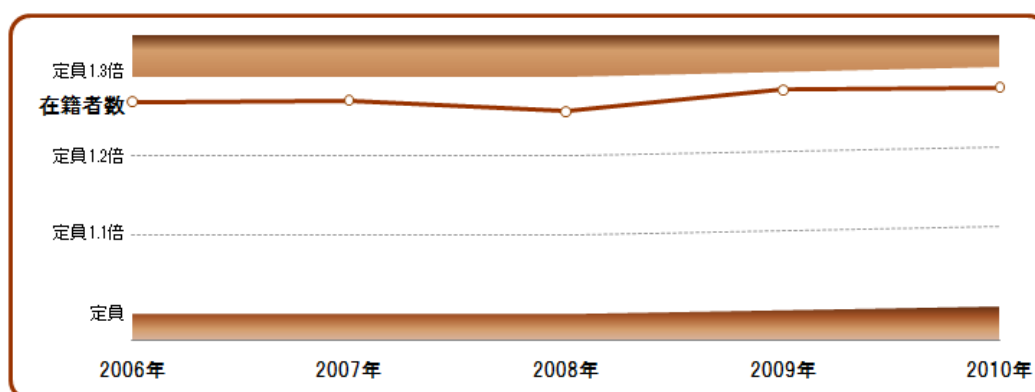
●神戸女学院大学大学院		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学研究科					
英文学専攻	博士前期課程	13名	13名	26名	24名
	博士後期課程	2名	1名	6名	4名
社会学専攻	修士課程	5名	1名	10名	2名
比較文化学専攻	博士前期課程	5名	3名	10名	7名
	博士後期課程	2名	0名	6名	6名
	計	27名	18名	58名	43名
人間科学研究科					
人間科学専攻	博士前期課程	10名	8名	20名	21名
	博士後期課程	2名	1名	6名	1名
	計	12名	9名	26名	22名
音楽研究科					
音楽芸術表現専攻	修士課程	7名	7名	14名	14名
	大学院 計	46名	34名	98名	79名

●神戸女学院中高部		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
中学部		135名	144名	405名	436名
高等学部 全日制課程 普通科		—	—	405名	441名
	中高部 計	135名	144名	810名	877名

● 在籍者数推移

神戸女学院大学

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
文学部	1,626	1,623	1,620	1,651	1,679
音楽学部	215	216	214	213	211
人間科学部	783	789	764	786	772
計 (A)	2,624	2,628	2,598	2,655	2,662
定員 (B)	2,068	2,068	2,068	2,078	2,088
(A) / (B)	1.27	1.27	1.26	1.28	1.27



神戸女学院大学大学院・修士・博士前期課程

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
文学研究科	44	42	26	22	33
人間科学研究科	28	18	18	25	21
音楽研究科	13	13	15	14	14
計	85	73	59	61	68

神戸女学院大学大学院 博士後期課程

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
文学研究科	10	12	15	15	10
人間科学研究科	6	3	2	1	1
計	16	15	17	16	11

神戸女学院中高部

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
中学部	445	444	446	436	436
高等学部	463	473	433	440	441
計	908	917	879	876	877

5 役員・評議員に関すること

2010年5月1日現在

理事		定員	現員	
第1号理事	院長(理事長)	1名	1名	森孝一
第2号理事	学長	1名	1名	飯謙
第3号理事	中高部長	1名	1名	船橋昭
第4号理事	めぐみ会※1推薦会員で 理事会選任	3名	3名	石割初子 上紀子 伊藤良子
第5号理事	評議員会選任	2名	2名	西澤他喜衛 南徹弘
第6号理事	コーポレーション※2推薦で 理事会選任	3名	3名	伊藤栄子 古庄高 原田恵子
第7号理事	理事会選任学識経験者	4名	4名	柴谷享一郎 家近正直 吉富正夫 安場耕一郎
総数		15名	15名	
監事		2名	2名	澤田磐雄 秋山ひさ

評議員		定員	現員	
第1号評議員	理事会選任学識経験者	11名	11名	南徹弘 富田順治 磯部卓三 松本真千子 今竹翠 高坂敬三 西澤他喜衛 吉富正夫 伊藤栄子 伊藤良子 植木龍夫
第2号評議員	めぐみ会推薦会員で 評議員会選任	8名	8名	富川浩子 田宮孝子 中野桂子 竹内多代 転法輪真理 西誠子 野木芳子 松本美耶子
第3号評議員	理事会推薦教職員で 評議員会選任	8名	8名	吉田純子 斉藤言子 古庄高 北田京子 林真理子 荻欣也 東松道雄 井出敦子
第4号評議員	コーポレーション推薦で 評議員会選任	4名	4名	Ann B. CARY 菅根信彦 伊吹寛子 杉浦剛
総数		31名	31名	

※1めぐみ会…

正式名称「社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会」(2011年1月5日付で「公益社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会」に移行)は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)

※2コーポレーション…

正式名称「Kobe College Corporation」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

6 教職員数等に関すること

● 在籍教職員数

2010年5月1日現在

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制 教員	特任 教授	客員 教授	客員 研究員	特別 客員	計
英文学科	5	7	5	0	1	1	0	0	0	19
総合文化学科	17	7	1	0	0	0	0	1	1	27
音楽学科	10	1	1	0	1	0	2	0	1	16
心理・行動科学科	7	3	1	0	2	0	0	0	0	13
環境・バイオサイエンス学科	7	3	0	0	0	0	0	0	0	10
一般(体育)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	48	21	8	0	4	1	2	1	2	87

	教諭
高等学部	21
中学部	20
計	41

	専任 事務職員	専任 労務職員	契約職員 (学生寮)	計
法人	18	1	0	19
大学	43	0	2	45
中高部	6	0	0	6
計	67	1	2	70

	嘱託 事務職員	嘱託 教学職員	計
週4日	15	12	27
週3日	3	2	5
週2日	0	4	4
計	18	18	36

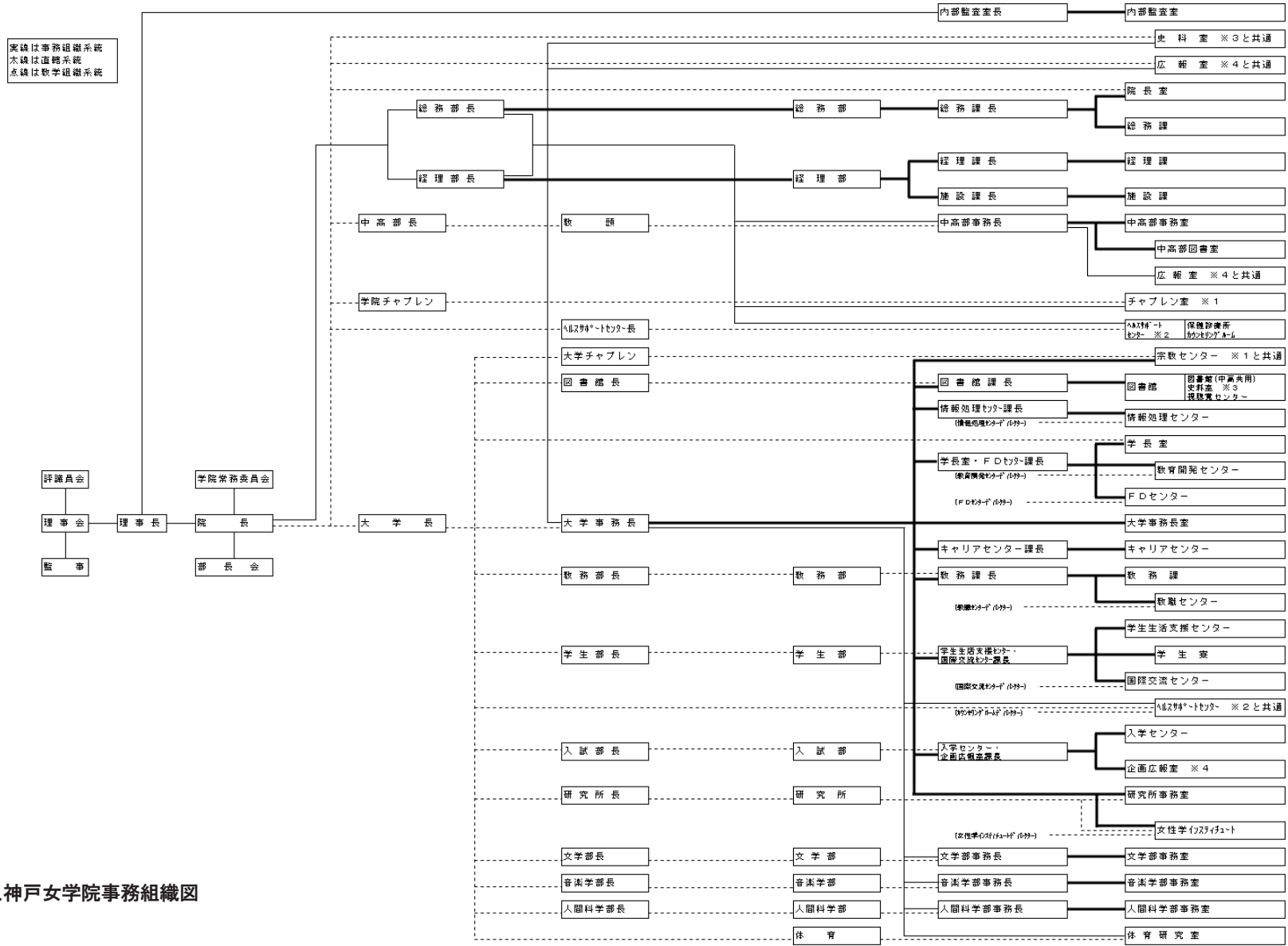
● 在籍教職員数推移

		2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
大学	専任教員	90	87	85	84	87
	非常勤講師	319	306	332	342	333
	大学計	409	393	417	426	420
中高	専任教員	40	41	41	42	41
	非常勤講師	22	23	17	19	23
	中高計	62	64	58	61	64
計		471	457	475	487	484

学院	専任職員※	75	71	73	71	70
	嘱託職員	36	33	34	35	36
	計	111	104	107	106	106

※契約職員含む

実線は事務組織系統
太線は直轄系統
点線は教務組織系統



学校法人神戸女学院事務組織図

7 法人の沿革

1873年（明治6年）

米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日し、10月、神戸花隈村に私塾を開く。

1875年（明治8年）創立

山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット女史、舎監はダッドレー女史で、当初の学生数は26名（寄宿生3名、通学生23名）。

1879年（明治12年）

校名を「英和女学校」と定め、5年制の課程を定めカリキュラムを整備。

1885年（明治18年）

高等科（1年）、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。

1891年（明治24年）

本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。

1894年（明治27年）

「神戸女学院（Kobe College）」と改称。名実ともにCollege（女子高等教育機関）となる。

1906年（明治39年）

教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。

1909年（明治42年）

専門学校令により「専門部（4年制）」（当時の女子高等教育の最高水準）設置認可。

1919年（大正8年）

専門部を「大学部」と改める。予科1年・本科3年を置く。

1933年（昭和8年）

西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズ博士によってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・チャペルを含む総務館などは当初の建物。

1948年（昭和23年）

4年制の新制大学が発足。学制改革により4年制の新制女子大学「神戸女学院大学」が認可され、文学部（英文学科、社会学科、家政学科）を設置。

1949年（昭和24年）

新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。

1965年（昭和40年）

大学院文学研究科（修士課程）英文学、社会学専攻を設置。

1967年（昭和42年）

家政学科が独立して家政学部となる。

1975年（昭和50年）

「創立100周年」を迎える。

1976年（昭和51年）

文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。

1980年（昭和55年）

大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科（修士課程）に日本文学専攻を設置。

1989年（平成元年）

大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。

1990年（平成2年）

音楽専攻科を設置。

1993年（平成5年）

家政学部を改め、人間科学部人間科学科が設けられる。（家政学部は募集停止）

1997年（平成9年）

大学院人間科学研究科（修士課程）人間科学専攻を設置。

1999年（平成11年）

大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。

2000年（平成12年）

創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科（修士課程）音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文学専攻を比較文化専攻に改称。

2001年（平成13年）

東京女子大学と相互に学生交流を行う特別聴講制度を開始。

2002年（平成14年）

大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。

2004年（平成16年）

大学院文学研究科（博士前期課程）英文学専攻に通訳コースを設置。

2005年（平成17年）

人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置。（人間科学科は募集停止）

2006年（平成18年）

音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。

2007年（平成19年）

音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。

東日本大震災への対応について

この度の東日本大震災で被災された皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧、復興をお祈りいたします。

本学におきましても、地震発生後速やかに被災地出身の在学学生23名に安否確認を行いました。家屋の損壊等さまざまな被害状況を確認しましたが、幸いにも人命は守られました。

また、学院では震災支援として以下のような初期対応を実施しました。

〔東北地方太平洋沖地震義援金の募集〕

3月14日に「東北地方太平洋沖地震義援金」学院窓口（口座）を設置のうえ募金活動を実施し、3月30日に第1次義援金として5,665,091円を日本赤十字社へ送金しました。

〔被災地域大学生の受け入れ〕

大学において被災地域の学生を支援するため、本学へ受け入れる方針を定めました。

対象：被災地にあるキリスト教学校教育同盟傘下の大学に在籍する女子学生

支援内容：

(1) 通学可能地域に住居（公的住宅や親戚等）があり、そこに「疎開」している学生に図書館を開放する。希望者には特別聴講生として講義も開放する。

(2) 通学可能地域に寄留先のない被災学生のうち、希望者を住居と生活支援金（月5万円）を提供する特別派遣学生（定員10名）として受け入れる。

受入期間：2011年4月～2012年3月

〔被災者の受け入れ〕

学院として被災者を支援するため、東京寄宿舍クローバーハウス（東京都渋谷区）を避難住居として提供する方針を定めました。

Ⅱ. 事業の概要

1 大学総括

2010年度は、4月5日の入学式に学部651名、大学院博士前期（および修士）課程32名、同後期課程2名の新入生を迎えて始まり、2011年3月17日、625名に学士号、23名に修士号、1名に博士号（他に論文博士1名）を授与する卒業式をもって閉じられました。健やかな教育の営みがゆるされた一年であったと感謝しております。

最初に言及すべきは、「ミッションステートメント」の制定です。ミッションステートメントとは、学校が教育活動を行うに当たって自覚する理念や使命を意味します。本学がそれをこの時期に公にした大きな理由は、今般、大学基準協会による認証評価システムの変更に伴い、その明確化が求められたことにあります。大学では4月末に教授会研修会を開催し、これまで重視してきた教育の柱（「キリスト教教育」「国際理解の精神」「リベラルアーツ&サイエンス」「少人数制」）を確認し、さらに本学院の創立者の一人であるイライザ・タルカット先生の歩みを学んで、そのポイントを考えました。これを受け、学部長会や学務委員会等で議論を重ねました。そこから「共感性」をキーワードとするミッションステートメントが導かれました。この認識に基づき、アドミッション・ポリシー（入学者選考の基本方針）、アカデミック・ポリシー（カリキュラムの編成方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）も決めました（本文は次ページをご覧ください）。本学が継承してきた教育理念の伝統を再確認する、たいへん貴重な機会となりました。今後はその実質化が課題となります。

教育プログラムについては、英文学科のカリキュラム改革が特筆されます。導入教育において英語の基礎力を充実させ、その上に立って、「英米文学・文化」、「言語・コミュニケーション」、「グローバル・スタディーズ」の各分野を視野に納めて卒論の完成へと至る多角的な学習課程が新たに構築されました。本学の英語教育の伝統をさらに深める営為として期待されます。また環境・バイオサイエンス学科に中・高理科教職課程が開設されました。本学院ではすでに1890年代のカレッジ部門で理科教員を養成していましたから、2世紀ぶりにその志を回

復させたこととなります。

大学院では、昨年度の本欄でも紹介したプロジェクト「地域からESDを推進する女性環境リーダー」が、アジア5ヶ国より8名の留学生を迎えて正式にスタートしました。本学で用意する講義とインターンシップやフィールド・ワークを通して、環境教育にあたる女性のリーダーの育成を目指します。このプログラムには、女性のキャリア教育や遠隔同時通訳システム等、これまで本学が積み重ねてきた取り組みが活用されています。留学生諸姉の研究姿勢はまことに真摯で、本学の学生もよい刺激を受けています。この実施に伴い4ヶ国4大学と包括交流協定を締結しました。他に国際交流センターの尽力があり、新規に米国およびアジア地域の大学と協定を結ぶ準備をしています。



国内に目を向けますと、高校とのより深い関わりを願い、春から秋にかけて兵庫県教育委員会後援のもと、高校生を対象とする「絵本翻訳コンクール」を実施しました。結果、北海道から九州の90高校より851作品の応募を得ました。応募者の作品はレベルの高いもので、選考にあたった本学教員や卒業生は嬉しい悲鳴を上げました。英語と本学の関係を印象づけることができたと言っています。また3月には県立西宮高校と連携教育に関する協定を締結しました。これによって教員免許取得を目指す学生への細やかな指導環境がいつそう整えられました。

最後に、2008年度に受けた大学基準協会による大学評価と認証評価において指摘された定員管理の問題については、定員増により一定の改善を見たことをご報告いたします。

2 ミッションステートメントと3つの基本ポリシー

● 大学

(2010年6月18日学務委員会制定、2011年3月7日改正)

ミッションステートメント

神戸女学院大学は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション・ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学のミッションステートメントとアカデミック・ポリシーをよく理解し、それぞれの学科・専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして、隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、幅広い知識と教養と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学部（英文学科及び総合文化学科）、音楽学部（音楽学科）、人間科学部（心理・行動科学科及び環境・バイオサイエンス学科）を置き、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1) 基礎学力と教養の習得

専門教育科目の理解を深め、幅広い視野と知識を持つための全学共通科目（主題コース、入門コース、探求コース、外国語、体育学及びキリスト教学）を必修科目とします。

2) 専門的知識と技術の習得

専門的な知識と技術を体系的に習得するために、各学科に専門教育科目群を設置します。学科の内容に応じた表現能力、課題設定・問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、少人数のゼミ教育・実技指導を行います。

3) リベラル・アーツ&サイエンス教育の推進

専門分野を学びつつ、同時に幅広い知識と教養と

応用力を身につけるため、学部学科の壁を越えた教育を推進します。学科専門教育科目の一部を探求コース科目として他学科生に開放し、また、副専攻制度を設け、学科横断的な教育機会を提供します。

4) 国際理解の推進

全学を対象に、通訳を養成する教育方法を応用して、英語運用能力を集中的に伸ばす通訳プログラムを行います。また、他者との共生を志す国際理解の精神を育むため、海外の大学・諸機関との交流、多彩な留学、研修プログラムなどを実施します。

5) キャリア形成の支援

専門的知識を活かしたキャリア形成のために教育職員免許状（英語、社会、地理歴史、公民、音楽及び理科）や精神保健福祉士の受験資格など、資格取得のための科目群を設置します。また、キャリア形成のための基本的認識を深める科目群を提供します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して教授会での審議を経たうえで、卒業が認定されます。

1) 本学の学生が卒業時に備える能力

本学の教育課程を修了した者は体系的に身につけた専門的なものの見方や専門的技術を活かしたキャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の枠を超えた幅広い教養、表現力、ものの見方、共感性を身につけています。

2) 卒業に値する学生を認定する手段

文学部では卒業論文（英文学科は英文）を担当教員が審査し、優秀な論文を公表します。

音楽学部では卒業専門実技試験にて審査が行われ、その後、全員が公開の卒業演奏・公演に臨みます。

人間科学部では卒業論文を担当教員が審査し、公開された卒業論文発表会を行います。

● 大学院

(2010年10月28日大学院委員会制定、2011年3月2日改正)

ミッションステートメント

神戸女学院大学大学院は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション・ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学大学院のミッションステートメントとアカデミック・ポリシーをよく理解し、それぞれの研究科・専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして、隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、専門的な知識と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学研究科（修士課程、博士前期・後期課程）、人間科学研究科（博士前期・後期課程）、音楽研究科（修士課程）を置き、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1) 専門的学術理論・技術の教授と研究、2) 論理的思考力の養成、3) 専門知識と技術の社会的還元、4) 文化・思想・科学の進歩に寄与する独創性の育成

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学大学院では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した大学院生に対して所定の委員会での審議を経たうえで、修了が認定されます。

1) 本学の大学院生が修了時に備える能力

本学大学院の博士前期課程・修士課程を修了した

者は体系的に身につけた専門的なものの見方や表現力、専門的技術を活かした教育・研究キャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の知識や技術を有効に社会に還元するためのものの見方、共感性の高い人格的教養を身につけています。

本学大学院の博士後期課程を修了した者は専門領域のより深い知識と思考力を身につけ、自立した研究者、指導者としての能力を身につけています。

2) 修了に値する学生を認定する手段

文学研究科では修士論文または修士課題研究を主査および副査が審査し、研究科委員会で合否を判定します。合格した論文または課題研究は公開の場で報告します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による査読、公開の口頭試問を行います。研究科委員会の審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は3ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

人間科学研究科では修士論文を主査および副査が審査し、公開された修士論文発表会と審査委員による口頭試問を行い、研究科委員会で合否を判定します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による論文審査、公開の論文公聴会と口頭試問を行います。研究科委員会での審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は3ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

音楽研究科では修了作品または修了演奏を専門教員全員と外部から招聘した審査員により公開のもとで審査し、副論文は主査と副査が審査します。合否は研究科委員会で判定します。優秀な成績を収めた学生には学外で開催する修了披露演奏会で演奏する機会を与えます。副論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。

3 中高部総括

中高部の2010年度は、4月1日のJ1（中学部1年）オリエンテーション、デイキャンプによって始まり、8日の中学部入学式で144名を、9日の高等学部入学式で142名を迎え、学校生活が始まりました。今年度も、中高部の本来目標とする教育活動を日々重ねることに、全教職員と全校生徒が取り組みました。

昨年度は、世界的に猛威を振るったインフルエンザの対応に苦慮しましたが、今年度は特に変化もなく、2学期末まで年間計画が順調に行われたかと思いましたが、期末試験最終日12月10日（金）午前10時過ぎに、中高部1号館ロッカー室から火災が発生しました。出火場所付近の5㎡が焼けた程度に済み、生徒たちに怪我人も無く、大事に至らなかった事は不幸中の幸いでした。消防署、警察署による現場検証において、出火原因は室内のLANケーブル配電盤のコンセントからの漏電ということで、きわめて予見の難しいものでした。今回の火災に際して、近隣並びに関係者の方々には多大なご迷惑とご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。3学期始めから、生徒たちは新しいロッカーを使用し、普段どおりの学校生活を送っています。年に1回の防災訓練の効果もあり、避難時の混乱を避けることができました。今後は再発防止の為に、より一層防火体制の強化に努めてまいります。

今年度から、中高部の校務分掌の校務課の中に、広報係を新たに設けました。教頭、校務課長を含む教諭7名でチームを組み、校内での広報、校外での大手塾での広報の整理充実を図りました。校内では、2回「学校説明会」を持ち、1回目は10月5日（火）午後、講堂で学校沿革、入試についての説明、J1の英語の模擬授業を披露しました。2回目は11月20日（土）に学校を開放しました。J自治会生徒達の受付案内、クラブ活動発表、活動の公開練習と生徒の協力を得ました。初めての試みとして、模擬授業の提供もありました。物理、化学、音楽、英語の4科目でそれぞれ見学者参加型の授業をしました。来校者1356名。

また今年度から「学校評価」を開始しました。6年前から試みましたが、軌道に乗らず、昨年度末に学校評価委員会を本格的に立ち上げ、今年度から実

施しました。建学の精神、教育課程と学習指導、生徒指導、進路指導など10項目について、教職員にアンケートを採り、その結果を下に努力目標を挙げ、その結果を理事会とPTA幹事に評価してもらいました。

以上3点以外は、例年通りの中高部の年間活動を行いました。毎朝、全校生徒、教員が一同に会して行う講堂での礼拝は得がたいものだと思います。共に聖書を読み、讃美歌を歌い、話を聴き、祈る。各自が心の闇を照らし内省し、また心に光を灯す静寂のひと時、学校生活をスタートさせるのに良い時です。今年度も生徒達は、多彩な学校行事を大いに楽しんでおりました。体育祭、文化祭、キャンプなど生徒主導の行事は、立案、計画、準備、実行、反省と友達と協調し成長していく姿が眩しく輝き、傍らに居て感動的でもあります。今年度から一泊広島平和修養会が実施されました。広島女学院中学高等学校の場を提供して頂き、交流、意見交換し共に学び大いに成果があり、最後の場で来年度の実施も確認しました。



ヴォーリズ設計の美しく荘厳な建築群、豊かな四季折々の姿を呈する自然。毎朝一番に持たれる礼拝の時間。そして生徒達の自主的で自由活発な活動。この3点がうまく溶け合い、組み合わせられて、心地よい学習空間を作っています。勿論、最高とは言えません。もっと改善反省すべき所、教師の努力、生徒達の自覚・・・は色々と必要です。中高部の先輩たちが今まで築き上げた良き伝統を守り継承出来るよう、生徒達と一緒に努力してまいりますので、どうぞ、ご加禱下さい。

4 教育・研究

英文学科カリキュラム改編

2010年度入学生より実施の英文学科新カリキュラムには、4つの大きな目的があります。1つ目は「ゆとり世代」と呼ばれる近年の高校卒業者を大学レベルの英語を使った授業についていかせる「レメディアル教育を含んだ形のアカデミック英語へのインプット確保」であり、このために、1科目を除く専門必修科目は全て英語そのものの授業となっています。2つ目は、「レメディアル後の英語力の更なる完成度の追求とアカデミックな専門性へのインプット確保」であり、2011年度より全学副専攻となる通訳・翻訳プログラム科目、英語での発信（プレゼンテーション、スピーチ、アカデミックライティング）の科目、各専門への入門科目が2年生時に配置されています。3つ目は、「確かな英語力を基にした専門性の追求」であり、3年生時以降各学生は自身の進みたいコースに基づき自分でカリキュラムを組み立てることになり、また3年生後期からゼミを配置することで、専門的知識をどう研究に生かすかの考察を余儀なくされます。最後は、「専門的情報の発信力と論理力による就職力の養成」であり、4年生ゼミを通して一定の英語を通じた発信力・論理的思考力・表現力を発揮させ、「使える人材」を育てることがゴールとなります。オーソドックスなカリキュラムですが、中身が伴えばベストなカリキュラムであることは言うまでもありません。

さて、1年目の成果ですが、3つの点が上げられます。1年目を英語の授業のみにした事で、上級学年と比して学生の学校に対する態度に安定感があり、極度についていけなくなる学生もなく、能力別クラス編成の上位も下位も、非常にまじめに勉強している、ということです。これは大変歓迎すべき事象であると思われます。2つ目は、入学時からI P O T O E I Cを課するようになって3年目でありましたが、前2年が1年間で50から60点の伸びを示したのに対し、新カリキュラム入学生は約80点の伸長を見せたことです。これも大変良いことでした。3つ目は、上記2ポイントに関連し、下位クラスの学生が2年目は上位クラスに一気に上がる割合、或いはその逆の割合が、例年より多いことです。全体の平均は先にも述べたように上昇しているので、これは

健全な競争的環境が学生間に構築されていることの証でしょう。新入生でも同じことが起こることを期待しつつ、新2年生でのアカデミズムと英語力完成の両立を目指し、研鑽を積む所存です。

2010年度音楽学部定期演奏会

2010年度の音楽学部定期演奏会は、神戸女学院創立135周年記念の一環として12月5日(日)午後4時より、兵庫県立芸術文化センター大ホールに於いて開催されました。

4年前、音楽学部設立100周年記念行事として採り上げたベートーヴェンの「第九」を再びという多くの学生、教員の願いにより今回の定期演奏会で再度演奏されることになりました。これまで定期的に演奏されてきた「メサイア」に「第九」が加わり、学生たちは在学中にこの2曲を体験できることは、大きな喜びにつながると思います。

しかし合唱付の曲を演奏するためにいつも問題になるのは、男性合唱メンバーの確保です。今回は5月末より公募をかけ、当日は一般73名、同志社グリークラブ37名、新月会より9名、そして本学関係者、教員9名の計128名が豊かな声量で女性合唱を支えて下さいました。その中には院長、学長と、本学院の「顔」もありました。1000名を越す来場者で客席が埋まり、まず中村健教授指揮によるリストの「交響詩」レ・プレリュードで演奏が始まりました。この曲は作曲当初、リストの合唱曲「四大元素」の序曲として書かれた曲ですが、まさに「第九」合唱付の前奏曲としてふさわしい荘厳な響きが会場に広がりました。



休憩をはさんでいよいよ「第九」の登場です。ソプラノ 齊藤言子（本学教授）、アルト 西明美（本学

教授)に客演のテノール清水徹太郎、バリトン伊藤正両氏を迎え、総勢356名が舞台上一堂に会した光景は壮観とも言えるものでした。学生たちの気迫のこもった演奏は、合唱とオーケストラが対話し、ひとつとなって「平和と歓喜」を歌い上げました。鳴り止まぬ拍手に何度もカーテンコールが起こり感動のうちに幕を閉じました。半年以上前から練習に励んだ学生たち、それを支えてくださった職員、スタッフの気持ちが結集された演奏会となりました。

第5回音楽学部舞踊専攻公演

今年の第5回音楽学部音楽学科舞踊専攻公演は、めぐみ会東京支部のお誘いで、3月5日に東京練馬区のIMAホールにて初日を迎えました。6名の男性ゲストダンサーと共に約40日間のリハーサルを経て、東京で昼・夜の2公演、神戸朝日ホールにて3月8日、9日の2日間で3公演、そしてめぐみ会の和歌山支部の御招待により、3月12日、和歌山市民会館にて千秋楽となりました。プログラムは3年生によるThe Naked Truth(この作品は昨年公演で第1期生が踊ったもの)に続き、オーウェン・モンタギュー准教授による新作If Echoes Could Be Seenを2年生が踊り、休憩を入れて、舞踊専攻開設以来毎年踊られているHere We Are!を1、2年生と一緒に披露し、今回4年生のために島崎教授によって創られたThe Absence of Storyを、卒業を間近に控えた7名の学生が6人の男性ゲストダンサーと華麗に舞い、幕を閉じました。めぐみ会東京支部、そして和歌山支部のお計らいにより、地元以外の場所で公演をさせていただいたことは、学生、ゲストダンサー、そして我々教員、またスタッフ全員にとりまして本当にありがたく、その経験からそれぞれの個々が多くを学ぶことができましたことに、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

東京では開設以来我々の公演を観たことがない舞踊関係の方々が数多くみえられて、「これは学校公演というより、プロの舞踊団の公演レベルですね。」というようなお言葉を沢山の方々からいただきました。神戸に戻っての公演は、地元の皆様の温かい拍手のおかげで何度もカーテンコールをさせていただき、学生、特にこれが最後の公演となる4年生の目からは涙がこぼれ、止まりませんでした。



そして和歌山での前日、舞台リハーサルの最中に東日本大震災が起こりました。我々は劇場の中において大きな揺れは感じませんでしたが、会場が海の近くということもあり、翌日に来場を予定しておりました1200名の中・高生がキャンセルになりました。このような中、和歌山では急きょ震災のためのチャリティ公演として本番をさせていただくことになりました。学長も駆け付け、被災された方々のために、みんなが一丸となり舞台を努めました。後にめぐみ会和歌山支部の方から連絡をいただき、多くの方々が我々の公演からエネルギーをもらえたということで、手紙を添えて寄付をして下さったそうです。

舞踊が何かの形でお役に立てましたことは嬉しいかぎりですが、今なお、被災地にてご苦労なさっている多くの方々のもとに、一日も早く平安が訪れますことをお祈りいたします。

環境学生会議

G8環境大臣会合の関連事業として2008年に発足した「持続可能な社会のための環境学生会議」(大学コンソーシアムひょうご神戸主催)を、第3回となる今年度は神戸女学院大学岡田山キャンパスにて2010年12月11日(土)に開催しました。

大学等における「環境」をテーマにした取り組みを発表する場である本学生会議は、環境に関心を持つ学生が集まって報告会、ポスターセッション、交流会を実施し、大学の枠を越えて交流することで、「環境」をテーマとした議論を高めていくことを目的としています。

午後2時からの報告会では、「猪名川・藻川の水辺まつりー担い手・水辺フォーラムについてー」(園田学園女子大学未来デザイン学部文化創造学科)、

「河川環境を利用したウォーキングプログラムの事例」（同大学人間健康学部総合健康学科）、「樹林化した河道の流況観測と樹林内外の流況・樹木抗力の解析」（神戸大学大学院工学研究科）、「金属多孔質膜を用いたC I S太陽電池の特性の解析」（兵庫県立大学大学院工学研究科）、「日本のサブカルチャーにおける地域活性化」（同大学環境人間学部環境人間学科）、「環境活動家・団体が活躍できる場作り」（立命館大学経営学部経営学科ほか）など計8題の講演が行われ、神戸大学の学生スタッフの司会のもとに活発な議論が交わされました。

報告会と併行して行われたポスターセッションでは、食と農業を通して環境とのかかわりを模索する本学人間科学部地域創りリーダー養成コース履修生および農業研究会によるフードマイレージなどに関する研究をはじめとして、兵庫県立大学工学部電子情報電気工学科による太陽電池の効率化に関する研究、神戸大学大学院人間発達環境学研究科によるバイオマスエネルギー源としての淡水藻類に関する研究、同大学大学院海事科学研究科による海水や海産物中のイオンの定量に関する研究、同大学海事科学部海上輸送システム学課程によるクラゲ成分の有効利用に関する研究など、報告会で発表されたものを含めて計20題の研究発表がありました。



会議の最後は、エミリー・ブラウン記念館のめじらウイングにおいて、本学環境・バイオサイエンス学科の4年生スタッフの司会進行で交流会が開催され、環境に関するクイズ大会などを通して互いの交流を深めました。

地域からESDを推進する女性環境リーダー育成プログラム：アジアからの留学生を迎えて

人間科学研究科では、2009年度より、科学技術振興調整費の助成を得て「地域からESDを推進する女性環境リーダー育成プログラム」を開始しています。このプログラムは、アジアの女子大学院生と日本人大学院生がともに1年間をかけ、活力ある地域社会を創るために国際的かつ学際的な環境の中で学ぶことを目標としています。そのため、カリキュラムでは①アジアの諸大学と神戸女学院とを結ぶ双方向性のオンラインビデオ講義を行う「アジアの環境とその保全」、②日本人教員が専門分野を英語で講義する「日本の環境とその保全」、③NPOや自治体・企業でのESD活動を学ぶ「インターンシップ」、④先進的なESD現場での「フィールドワーク」の4科目を新たに立ち上げ、知識と実践力のバランスに配慮した、コース型の大学院プログラムとしています。

2010年10月には華南師範大学（中国）から1名、ミリアム大学（フィリピン）から3名、サムラランギ大学（インドネシア）から1名、ダナン工科大学（ベトナム）から2名、プトラ大学（マレーシア）から2名の計9名の留学生を迎え入れました。アジアからの大学院生を1年間の長期にわたり複数名受け入れた経験が無かったことから、入国・滞在手続きや生活面、経済面でのサポートを如何になすべきかなどから試行錯誤ではありましたが、国際交流センターや各方面のご協力を得て、無事、受け入れを完了することが出来ました。特にイスラム圏からの留学生も居り、食事や習慣など、受け入れ側としても得難い経験を積むことが出来ました。



新規科目に関しても、2国間をオンラインで結ぶインターネットビデオ会議システムの運用には相手のインフラや回線状況により個別の困難があったり、日本人教員も全てを英語で行う講義に戸惑ったりしながらも、無事半年を終えることが出来ました。次期留学生の募集も進んでおり、神戸女学院の教育の一つの柱である「国際理解」を推進するプログラムとして、継続的に実施していきます。

女性学インスティテュート 25周年記念特別講演会

9月30日に本学講堂において、「ジェンダー平等への課題」と題して、女性学インスティテュート設立25周年記念特別講演会を開催しました。講演者として、国連の元女性差別撤廃委員会委員（2001年から2004年まで）であるシャムシア・アフマッド先生と、外務省国連日本政府代表部公使、ILO駐日代表などを歴任され、現在は文京学院大学特別招聘教授である堀内光子先生をお招きしました。松縄順子教授の指導の下で学ぶ通訳・翻訳コースの学部生を中心に実行委員会を結成し、講演者への学内案内などをしてもらいました。また、大学院生は講演会で同時通訳を担ってくれました。参加者は200名を超えました。

アフマッド先生は、委員として多くの国の男女平等の進展状況を審査されてきた経験から、女性差別撤廃条約の履行を進める上での女性学および女性学インスティテュートが果たす役割の重要性を指摘され、男女間格差の原因を明らかにし、その解消のためにどのような行動が必要であるかについて、学際的な研究を行うべきであること、国の機関および市民社会が、女性の人権の確立に向けてジェンダーの主流化を進めるように本学女性学インスティテュートが貢献をすべきであるとの見解を述べられました。

堀内先生は、日本では特に雇用と政治分野で男女間格差が顕著であることについてデータを示して解説され、これらの分野での指導的地位を占める女性を増やすために、暫定的な特別措置を早急にとるように女性差別撤廃委員会から勧告を受けていることにも言及されました。また、児童労働については、女兒は家事使用人や子ども買春などの「隠された形

態の児童労働」により多く従事させられていること、初等教育を受ける機会も女兒の方が少ないことを指摘されました。参加者からも活発に質問や意見が出され、盛大な講演会となりました。

神戸女学院大学第1回絵本翻訳コンクール

神戸女学院大学の通訳教育は有名ですが、通訳プログラムの一環として様々な形で翻訳に取り組んでいることは、意外に知られていません。ぜひ、「神戸女学院大学の翻訳」を知ってもらい、多くの人に翻訳をきっかけに物語の背景や文化など、様々なことに興味を持ってもらおうとの趣旨から、企画広報室を中心に、3年前に「高校生翻訳コンクール」を開こうとの企画がスタートしました。

もともと学生の間では絵本翻訳が人気でしたが、卒業生の中には松岡享子さん（翻訳家・絵本作家）という素晴らしいお手本もあります。松岡さんの翻訳絵本には、普遍的な人間性を扱った奥深いテーマが、さりげなく繊細な言葉で訳されています。そんなことから、コンクールの課題は、ぜひ絵本にということになりました。松岡さんと親しい前院長・松澤員子先生のご紹介で、松岡さんを審査委員長にお迎えすることができました。ノンフィクション翻訳家でもある英文学科の田辺希久子准教授、卒業生でヤングアダルト小説の翻訳家でもある豊倉省子講師も審査員に加わり、女学院パワーを結集したイベントとなりました。

5月から広報を始め、参加申し込みのあった高校に課題となる原書 Tight Times（フィリピンの絵本）を配布、各高校で夏休みを利用するなどして翻訳に取り組んでもらいました。9月6日の締切日までに、全国の高校90校から851点という、多数の応募作品が寄せられました。審査では選択に迷うほどよ



い出来栄えの作品が多く、高校生たちの工夫のほどが伺われました。優秀賞に兵庫県立夢野台高校と関西学院千里国際高等部、佳作に白陵高校、兵庫県立芦屋国際中等教育学校、大阪府立岸和田高等学校の個人またはチームがそれぞれ選ばれました。授賞式は10月16日(土)、エミリー・ブラウン記念館のめじらウジにて開催され、院長、学長をはじめ教職員の見守る中、厳粛な中にも若さあふれるセレモニーが行われました。

シンポジウム「舞う身体・響き合う身体」

10月3日(日)14時から16時まで講堂において開催された「身体性の教育」シンポジウムも今回が5回目となり、パネリストに今年度神戸女学院大学客員教授に就任された吉田都氏を迎え、音楽学科の島崎徹教授、総合文化学科の内田樹教授というお馴染みのメンバーによるトークショーが繰り広げられました。あいにくの雨でしたが、今回は吉田教



授がパネリストということもあってか、早い人は開場の1時間前から来ていたようです。また、若い女性(バレエを習っていると思われる)が普段より多かったことも印象に残りました。

話は、バレエ、武道という一見異なるように思える身体の使い方の中に、実は共通する意識のあることを明らかにしていきました。一流の武道家・舞踏家は普通の動きの中に何万枚ものピクチャーを持っているといいます。本当に自然な動き(武道では「甘味がある」という)は時間現象、空間表現ではなく、時間を自由自在に往来し、相手に影響力を与えることができます。この域に達すると時間、空間をデザインし、相手に伝える感染力を身につけることが出来るのです。これらの感覚を身につけるには「守破

離」の段階を踏まなければなりません。守一ひたすら基本に忠実に型を身につける。破一般を破って一人一人の持つ表現(絶対的必然性がある)に達する。ここで位相が変化し、動きに生命が吹き込まれます。離一自分の外側から自分をモニターする目が出る。動きは「作る」ものではなく「なる」ものなのです。

100年前の卒業生：小倉末子展

神戸女学院創立135周年記念「100年前の卒業生：世界が認めた最初の日本人ピアニスト小倉末子の軌跡」と題する展示を、2010年10月1日から2011年1月26日まで本学図書館本館閲覧室において開催しました。

この展示は、本学音楽部卒業生(M27回生)で往年の花形ピアニストとして活躍した小倉末子(1891～1944)の再評価をめざすもので、卒業(1910年)からちょうど100年になるのを機に実施しました。小倉末子はベルリン音楽院に学び、アメリカで演奏して名声を得た最初の日本人ピアニストです。帰国後はピアニストとして、また東京音楽学校(現在の東京芸術大学音楽学部)ピアノ科教授として、大正期から昭和初期に華々しく活躍しましたが、第二次世界大戦末期に亡くなったこともあり、戦後は忘却の淵に沈んでいました。

展示は「アメリカから凱旋の花形ピアニストとして」「神戸での生まれと育ち」「上野からベルリン、そしてアメリカへ」「帰国後の活躍：ピアノの第一人者として」「晩



年」の5部構成で、小倉末子の本学在学中の学びと卒業後の活躍を示す資料（楽譜、プログラム、記事、写真など）を収集整理して展示しました。

折よく、8月4日放映のNHK「歴史秘話ヒストリア」の番組「ぴあのすとおりに」で久野久子と並んで小倉末子を取り上げられたこともあり、東北関東など遠方からの見学者もありました。12月6日付『日本経済新聞』文化欄で記事になった後、見学申込み等がありましたので、当初の予定を変更し、会期を2011年1月26日まで急遽延長しました。

本企画は、神戸女学院「小倉末子展」実行委員会の主催によるもので、めぐみ会、クラブファンタジー（神戸女学院大学音楽学部同窓会）、朝日新聞社の後援を得て行われました。貴重な資料を提供下さった関係者の皆様、学内外の協力者の皆様に御礼申し上げます。

100年前の卒業生：小倉末子記念コンサート

11月3日（祝）15時から本学講堂で「100年前の卒業生：小倉末子記念コンサート」を開催しました。これは、図書館本館での展示と連動して、その事跡の掘り起しと再評価を図るために企画したものです。開演に先立って14時からプレ・トーク「ピアニスト小倉末子と神戸女学院」を行い、パワーポイントで関連の史料や写真を示しながら生涯と活動を概観しました（解説：津上教授）。

演奏曲はいずれも小倉末子が本学在学中にレッスンを受けた曲で、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第8番「悲愴」第2楽章（演奏は大学院音楽研究科1年生、小泉乃林子）と第5番第1楽章（同、野崎早織）、ショパンのポロネーズ第3番「軍隊」（小泉乃林子）、ノクターン第5番（同、須山由梨）と第13番（同、十川朋子）、バラード第2番（同2年生、小原友）、ベルティエニの練習曲作品29の1（小原友）、メンデルスゾーン＜無言歌＞第3番（十川朋子）、ウォレスの《マリタナ》序曲（須山由梨）と進み、最後に山上明美教授によってドビュッシー《版画》より＜雨の庭＞、ゴットシャルク＜最後の希望＞が演奏されました。さらにアンコールとして、1916年の行啓演奏会で小倉末子が皇后陛下の求めに応じて弾いたシューマン＜予言の鳥＞を山上教授が披露しました。

各演奏曲について、小倉末子が何年の何学期にタレー先生あるいはデフォレスト先生からレッスンを受けたものであるのか、どのようなエピソードが残っているかを短く解説しながら進めました（司会：津上教授）。明治末期に本学でどのような音楽専門教育が行われていたのかを明らかにし、その先覚性について実際に耳で確かめる貴重な機会となりました。衣装（院生の振り袖等の和服、山上教授の鹿鳴館風ドレス）も予想以上の好評を得たことを付記いたします。（来場203名）



5 高大連携

文部科学省のすすめている高等学校と大学との接続において、一人ひとりの能力を伸ばすための高大連携施策として、本学においても出張講義（大学教員が高校に出かけ、専門分野別講義を行う）、招聘プログラム（高校生を本学に招き、授業体験、大学

生活体験を提供する）、理学館体験プログラム（人間科学部の研究室、理学館の実験室を体験することでバイオサイエンスを実感してもらう）、聴講プログラム等様々な取組を実施しています。

●出張講義実施状況

担当学科	件数	担当教員
文学部 英文学科	20	立石、田邊、津田、中村
文学部 総合文化学科	2	飯田、小松
音楽学部 音楽学科	2	榎田、津上
人間科学部 心理・行動科学科	10	石谷、國吉、須藤、山
人間科学部 環境・バイオサイエンス学科	2	張野、横田
計	36	

●招聘プログラム実施状況

	実施日	担当教員	テーマ
県立西宮高等学校	8月25日	文学部 英文学科 中村	情報デザインとしての通訳
	8月26日	人間科学部 心理・行動科学科 須藤	性格を知ってどうということだろう？ —臨床心理学のなかの「心理査定」—
	8月27日	人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 西田	マウスの解剖実験
大阪信愛女学院 高等学校	11月2日	人間科学部 心理・行動科学科 水田	こころの病気
		人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 塩見	生命科学を利用して研究をしよう
和歌山信愛女子短期 大学附属高等学校	11月11日	文学部 総合文化学科 難波江	国際社会における英語の必要性
大阪女学院高等学校	12月15日	人間科学部 心理・行動科学科 水田	こころの病気

●聴講プログラム実施状況（神戸女学院高等学部対象）

		受講者数	受講科目数	合格者数
2006年度	前期	6	4	4
	後期	7	6	2
2007年度	前期	0	0	0
	後期	6	4	2
2008年度	前期	4	4	4
	後期	5	4	4
2009年度	前期	9	4	7
	後期	13	7	4
2010年度	前期	15	6	3
	後期	1	1	1

●理学館体験プログラム実施状況

	日程	担当教員	講義テーマ	参加者	
夏のオープンキャンパス	7月31日	小林哲	スクールカウンセラーの仕事	50名	
		田島	マズローの各階層に対応する音楽行動	30名	
		中川	環境に優しいマイクロスケール実験 ーボルタ電池と鉛蓄電池を作ろうー	7名	
		三宅	自然への気づき ーネイチャーアートを取り入れた体験ー	18名	
		出口	パラドクスー論理と心理のズレー	30名	
	8月1日	三浦	人工知能入門ーゲームをするプログラムⅡ	35名	
		山	比較文化の認知心理学 ー日本人は倫理的思考が苦手？ー	25名	
		遠藤	女心、秋の空、そして生態系 ーフクザツなものは変わりやすいか？ー	17名	
		高岡	舌の味覚感度を調べよう	8名	
		須藤	性格を知るってどういうことだろう？	30名	
高校教員対象サイエンス体験	8月2日	塩見	細胞の分化とその確認の方法	6名	
夏のサイエンス体験	8月3日	寺嶋	生体分子を大きさの違いで分離しよう	16名	
		横田	生物が棲む水中の酸素濃度を測ってみよう	17名	
理学館体験	10月2日	野寄	学科説明会・施設見学会	8名	
	11月27日			2名	
	3月19日			23名	
秋のサイエンス体験	9月25日	西田	哺乳類のからだの作り ー組織と器官を比較してみようー	9名	
		野寄	どんぐりの秘密ー森の樹木の世界を探ろう	8名	
模擬講義	県立西宮高校	10月27日	遠藤	身近な自然、熱帯の自然 ー生物の多様性を考えるー	10名
高大連携		11月10日	寺嶋	医薬品づくりのバイオテクノロジー	12名
		11月17日	横田	身の周りの化学物質とメダカの棲む環境	15名
		11月24日	高岡	有害捕獲シカの有効利用	10名

6 地域貢献

春季公開講座 クロスカルチャーの中で			
第1回	5月8日	神戸女学院中学部の英語教育 —Crew Method を受け継いで 小澤純子（中高部英語科教諭）	128名
第2回	5月15日	Britain and Japan –The Story of Two Island Nations イギリスと日本 — 二つの島国の物語 David G. McCullough（文学部英文学科准教授）	146名
第3回	5月29日	グローバル化と女性の国際移動：日本女性の行動・意識の変化を中心に 横田恵子（文学部総合文化学科准教授）	73名
			【延べ参加人数 347名】

秋季公開講座 創立135周年記念「近代神戸と神戸女学院」			
第1回	11月20日	宣教師の来神と「女学校」の創立 飯 謙（学長）	105名
第2回	11月27日	神戸女学院の音楽教育とピアニスト小倉末子 津上智実（音楽学部音楽学科教授）	77名
第3回	12月4日	デフォレスト院長とヴォーリズの教育理念と岡田山キャンパス 濱下昌宏（文学部総合文化学科教授）	78名
			【延べ参加人数 260名】

大学研究所主催 講演会			
6月11日		シューマン生誕200年に寄せて シューマン 子供の情景 作品15より ピアノ三重奏曲 第1番 ニ短調 作品63 演奏 ピアノ 佐々由佳里（音楽学部音楽学科教授） ヴァイオリン 辻井 淳（音楽学部音楽学科准教授） チェロ 林 裕（相愛大学准教授）	230名
11月19日		ホスピスの現場から見た、人の生きざま、死にざま 池永 昌之（淀川キリスト教病院ホスピス部長）	180名
			【延べ参加人数 約410名】

女性学インスティテュート主催 特別講演会			
5月28日		食卓から見える女性の変化 阿古真理（ノンフィクションライター、生活史研究家、文学部総合文化学科卒業生）	
			【参加人数 約120名】

女性学インスティテュート主催 連続セミナー 女性学の25年			
第1回	6月18日	やはり、ヴァージニア・ウルフはすごい！ 別府恵子（本学名誉教授）	
第2回	6月25日	女たちの文明開化～本邦洋楽史とミッション・スクール 津上智実（音楽学部音楽学科教授）	
第3回	7月2日	フェミニズムの展開・文学研究の場合 飯田祐子（文学部総合文化学科教授）	
第4回	7月9日	ジェンダーの心理学：フェミニズムと心理学研究 森永康子（人間科学部心理・行動科学科教授）	
			【受講者45名 修了証交付30名】

女性学インスティテュート主催 25周年記念特別講演会		
9月30日	ジェンダー平等への課題（同時通訳付） Sjamsiah ACHMAD（元女性差別撤廃委員会委員） 堀内光子（元ILO駐日代表、文京学院大学特別招聘教授）	200名超

女性学インスティテュート主催 学外講演会		於：西宮市大学交流センター	
第1回	10月13日	沖縄駐留米軍基地、並びに普天間基地移設をめぐる法律上の論点（同時通訳付） “US Military Bases in Okinawa and the Legal Issues Surrounding the Futenma Relocation” Shawn BANASICK（文学部英文学科准教授）	44名
第2回	11月10日	アメリカに長く住むと日本人はどう変わるのか －文化変容のプロセスを踏まえた自己変革の考察－ 出口真紀子（文学部英文学科准教授）	25名
			【延べ参加人数 69名】

宗教センターアッセンブリーアワー 金曜日公開プログラム			
4月16日	さんびかをうたおう♪ 斉藤言子（音楽学部音楽学科教授）	90名	
5月7日	音楽会 榎田雅祥（音楽学部音楽学科教授）ピアノ：中村友美（本学卒業生）	140名	
6月25日	オルガンコンサート 片桐聖子（学院オルガニスト・日本基督教団神戸教会オルガニスト（本学卒業生）） 前田直子（学院オルガニスト・日本基督教団豊中教会オルガニスト（本学卒業生））	160名	
7月23日	礼拝 松田 央（大学チャプレン 文学部総合文化学科教授）	25名	
10月1日	礼拝 中野敬一（チャプレン 文学部総合文化学科准教授）	25名	
11月5日	環境問題を通してのアジアとの連携 西田昌司（人間科学部環境・バイオサイエンス学科教授）	60名	
11月12日	宗教音楽の会 大学院 音楽研究科修士課程院生有志	120名	
12月3日	クリスマスオルガン演奏会 追中宏美（日本基督教団須磨教会オルガニスト・本学卒業生） 櫻谷真理子（オルガニスト・本学卒業生）	150名	
12月10日	キャロルをうたおう♪ 斉藤言子（音楽学部音楽学科教授）	80名	
2011年 1月7日	新年礼拝 飯 謙（学長・学院チャプレン 文学部総合文化学科教授）	30名	
1月14日	客員教授 ピアノ演奏会 Boris BEKHTEREV（音楽学部音楽学科客員教授）	300名	
			【登録人数 231名、延べ参加人数 1,180名】

文学部主催 講演会			
10月14日	グローバルジャングルの次の展開、これから起きることは何？ 浜 矩子氏（同志社大学大学院教授）	132名	
11月2日	国際平和のあり方：日本の平和協力 川端清隆氏（国際連合政務官）	85名	
			【延べ参加人数 217名】

人間科学部主催					
		日程	担当教員	講義テーマ	参加者
心理相談室	コンサルテーション	12月13日	小林哲	神原小学校	23名
		12月21日	小林哲	武庫愛の園幼稚園	約10名
		3月10日	石谷	立花愛の園幼稚園	約10名
	講演	1月24日	石谷	子供の人間関係作りをどうしていくか	60名
		1月26日	國吉	子供と向き合っていますかーほめる・しかる・子供との接し方ー(樋ノ口小学校)	60名
	2月4日	國吉	講演(みそら幼稚園)	40名	
心相ウィーク		8月2日	石谷	世代間練達と関係性の問題 ー手掛かりは生い立ちの中にー	64名
こどもサイエンス体験教室		3月21日	張野	身近なものを使って水を浄化してみよう	20名
大学院セミナー	第31回	7月26日	野寄	応用生態学の視点から捉えた海岸環境の保全と再生の可能性(講師:押田佳子)	10名
	第32回	10月18日	水田	成熟拒否社会(講師:片田珠美)	40名
現代GP		10月5日	西田 小林知	どこから来たの?野菜たち♪ ーみんなで“食”を考えようー	17名
					【延べ参加人数 354名】

音楽学部主催 音楽学部コンサート				
4月22日	2010年度 神戸女学院大学音楽学部 新人演奏会		いずみホール	461名
4月28日	神戸女学院大学大学院音楽研究科 第九回 修士課程修了披露演奏会		兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	193名
6月24日	神戸女学院大学(創立135周年) リード・オルガン修復披露演奏会		神戸女学院エミリー・ブラウン記念館 めじらウンジ	80名
6月29日	ベガにオーケストラがやってきた! Vol. 1 ~神戸女学院大学音楽学部オーケストラ in 宝塚~ <第17回サマーコンサート>		宝塚ベガホール	324名
10月7日	第17回 オータムコンサート		兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	296名
10月14日	神戸女学院大学音楽学部音楽学科舞踊専攻 第2回 卒業公演		芦屋ルナホール	391名
11月17日	神戸女学院大学大学院音楽研究科生による 音の饗宴 Vol. 4		兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	211名
12月5日	神戸女学院創立135周年記念 神戸女学院大学音楽学部 定期演奏会		兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	1,064名
2011年 2月23~25日	2010年度卒業生 卒業演奏会		神戸女学院講堂	延べ 300名
3月8日	神戸女学院大学音楽学部音楽学科舞踊専攻 舞踊専攻第5回公演		神戸朝日ホール	288名
3月9日		259名 264名		
【延べ入場者数 4,131名】				

音楽学部主催 子どものためのコンサート・シリーズ				
7月3日	第28回 子どものための七夕コンサート ~星までとどけ、みんなのハーモニー~			602名
10月16日	第29回 三大学饗宴!子どものためのスペシャル・コンサート ~音楽で広がるイメージの世界~			330名
12月11日	第30回 子どものためのクリスマス・コンサート ~みんなですごそう♪音楽いっぱいのクリスマス~			780名
【延べ入場者数 1,712名】				

7 その他の事業

	学 院	大 学
4月	新任教職員就任式	入学式、入寮式 新入生歓迎会・オリエンテーション、登録ガイダンス ITオリエンテーション フレッシュマンキャンプ(六甲セミナーハウス、ウェスティンホテル淡路、南淡路ロイヤルホテル) 春季教授会研修会
5月	院長就任式 創立者記念日墓前礼拝 創立135周年愛校バザー	春季宗教強調日
6月		音楽学部卒業生による演奏会(シカゴ日本総領事館、ミネアポリス) 保護者懇談会(本学、松山) 米国ケネソー州立大学研修プログラム(本学) 入学者選抜説明会(高校教員対象) 音楽学部サマーコンサート
7月	学院リトリート	保護者懇談会(田辺) 音楽学部夏期講習会(本学)
8月		夏のオープンキャンパス 大学職員SD研修会、ミニ懇話会 夏期語学研修(西オーストラリア大学、サセックス大学、カルフォルニア大学アーバイン校、フランシュ・コンテ大学)
9月		保護者懇談会(本学・第2学年対象) 保護者のための就職セミナー(本学) 公募制推薦入試説明会(天王寺)
10月		公募制推薦入試説明会(本学) まちの寺子屋師範塾:「子ども教育の今」 インド学生研修プログラム(本学) フィリピン、ミリアム大学学生研修プログラム(本学) 秋季教授会研修会 ESD推進プログラム、キックオフ・シンポジウム(本学)
11月	宗教強調週間	宗教強調週間 一般入試過去問特別講座
12月	クリスマス礼拝	一般入試説明会(本学、天王寺) クリスマスオープンキャンパス
1月		
2月		春期語学研修(クイーンズランド大学、ヨーク大学)
3月	ハラスメント防止のための研修会	ハラスメント防止のための研修会 学位記授与式 春のオープンキャンパス

	中高部	中高部 生徒の活動
4月	J1オリエンテーション J1デイキャンプ(1)(2) 留学生オリエンテーション 中学部入学式、高等学部入学式 宗教部主催修養会(水上隣保館訪問) PTA総会 春の遠足 春の子ども会(S自治会・関学共催)	西宮市民体育大会バドミントン大会:高校の部団体3位(S2生4名、S1生2名) 第26回成田山全国読書大会:読売賞(S3生)
5月	聖書を学ぶ会(6,10,1,2月の計5回) PTA岡田山散策会 教育実習	第18回国際哲学オリンピック(アテネ)に日本代表で出場(S2生)
6月	体育祭 人権学習会 芸術鑑賞会 防災訓練 PTA教養講座	兵庫県私立中学・高等学校連合会英語教育研究会主催第6回英語レシテーション・コンテスト:中学第1位(J3生)
7月	JS校内大会 リーダーシップ・トレーニングキャンプ 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎) 宗教部主催修養会(広島訪問、長島愛生園)	西宮市中学校総合体育大会卓球大会女子団体戦:1・2年生の部第3位(J2生5名、J1生3名) 第54回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技:団体戦第3位(J3生7名、J2生3名)
8月	夏山登山	第59回近畿中学校総合体育大会テニス競技:個人戦ダブルスベスト8(J3生、J2生) 第37回全国中学生テニス選手権大会:個人戦シングルスベスト16(J3生) 第60回神戸新聞杯阪神E.S.S.ユニオンシナリオ・リーディング・コンテスト:第1位(S2生、S1生9名) 第34回全国高等学校総合文化祭囲碁部門団体戦:兵庫県代表団体戦準優勝(S2生) 第15回全日本高校・大学生書道展:書道展賞(S2生)
9月	教職員研修会 文化祭	第12回ブリガム・ヤング大学ハワイ校全国高校生英語スピーチコンテスト関西第二地区大会:第2位(S2生) 第49回全国高等学校生徒英作文コンテスト:1年生の部優良賞(S1生)、2,3年生の部優良賞(S2生)
10月	中学部学校説明会1 S2修学旅行、J3小旅行 S1一泊研修 J1、J2、S3遠足	第23回姫路獨協大学主催高校生スピーチコンテスト:優勝(S2生)、第3位(S1生) 第8回西日本高校フランス語スケッチ暗唱大会:準優勝/日仏高等学校ネットワーク賞(S3生、S2生) 梅花女子大学第57回高等学校英語弁論大会:Honorable Mention Award(S1生) 第38回兵庫県私立学校読書感想文コンクール:特選(J2生2名、S3生)、入選(S2生2名)、佳作(J2生)
11月	宗教強調週間 PTA宗教講話 中学部学校説明会2 人権学習会 秋の子ども会	第45回近畿中学校女子英語暗唱大会:第3位(J3生) 第18回薫英杯女子中学生英語スピーチコンテスト:優勝(J3生) 第27回茨木市国際親善都市協会英語スピーチ大会:第2位(S1生) 広島女学院大学ゲーンズ杯高校生英語スピーチ・コンテスト2010:第3位(S1生) 第43回私学の書展:特選グランドパワー賞(S2生) 第34回兵庫県中学校新体操新人大会:団体第3位(J2生5名) 平成22年度兵庫県中学校秋季テニス大会:団体戦3位(J2生8名、J1生2名) 第9回鳳凰杯全国中学生英語スピーチコンテスト:優秀作品(J3生) 西宮・宝塚租税教育推進協議会「税の書道」:西宮・宝塚租税教育推進協議会賞(J3生)、西宮納税貯蓄組合連合会長賞(J3生2名、J2生)
12月	PTAクリスマス礼拝 クリスマス礼拝 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎)	第56回青少年読書感想文兵庫県コンクール:兵庫県学校図書館協議会賞(S3生)
1月	中学部入試 文化スポーツ賞・部長賞表彰式	平成22年度西宮市民テニス大会:個人戦シングルス優勝(J3生) 神戸日米協会第18回高校生英語暗唱大会最終選考会:第2位(S1生)
2月	人権学習会	JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2010:佳作(J1生) 兵庫県高校生英文エッセイコンテスト:佳作(S2生、S1生)
3月	高等学部卒業式 PTA常任幹事会 讃美歌コンクール 中学部卒業式	

Jは中学部、Sは高等学部、数字は学年を示す

8 施設・設備

音楽学部1号館耐震補強他

----- 26百万円

建物の耐震性能の強化を図るため、1階・2階に耐震補強壁を8箇所設置した結果、新耐震基準に沿った建物となりました。また、今回の工事に併せて、1933年から使用してきた床置き暖房器の配管が、経年劣化による漏水等が多発したため、冷房・暖房を兼ねた機器や配管を更新しました。

バリアフリー化の推進

----- 59百万円

中長期計画に沿って学内のバリアフリー化を実施しており、今回は、デフォレスト記念館と文学部2号館の建物2棟にエレベーターを新設し、新社交館1階トイレを改修しました。



デフォレスト記念館エレベーター



文学部2号館エレベーター外観

中高部1号館南側サッシ改修・壁面塗装

----- 31百万円

中長期計画に沿って中高部のサッシ取替を実施しており、今回は南側1階・2階のサッシ84枚を改修しました。工事の特徴として断熱性能に優れた特殊ガラスを採用すると共に、今回の工事に併せて、南側壁面のクラック・浮き補修及び、外壁塗装を行いました。



文学館・図書館系統空調熱源改修

----- 14百万円

両建物の冷房熱源は30年経過しており、機器の劣化による能力不足や運転時の発生音が高くなったため、利便性や機能性に優れた機器に更新をしました。

9 入試に関する状況

● 神戸女学院大学

[2011年度入試概況]

今年度におきましても、文部科学省の方針である年内入試入学者の割合を減少させ、一般入試へ緩やかにシフトする取り組みを、本学としても順調に進めています。不安定な社会状況の中での地元志向傾向、より学費の安価な国公立志向が高まる状況は変わりませんが、入試制度の工夫等により、公募制推薦入試と一般入試前期日程の志願者数としては、前年度比約105%という数字を今年度は確保しています。その具体的な入試制度の変更点は、公募制推薦入試における文学部での面接の廃止と併願制化、調査書と自己推薦書の得点化をそれぞれ実施したことです。また、大学入試センター試験利用入試でも、5科目型を廃止し、2科目型、4科目型の追加を行いました。志願者数確保の戦略として、4年目となる一般入試前期日程A・B・C・D日程の試験自由選択制・複数日程化と複数学科併願受験可能化、そして公募制推薦入試の他校との併願制化を実施しております。それにより入学予定者数を想定することが困難となってきましたが、今年度は必要想定者数どおりの入学者数を確保することができました。

オープンキャンパスほか学校見学会 来場者数

開催日	名称	人数
7月31日	夏のオープンキャンパス	999
8月1日	夏のオープンキャンパス	1,020
9月23日	公募制推薦入試説明会(天王寺)	109
10月2日	公募制推薦入試説明会	196
11月27日	一般入試過去問特別講座	87
12月11日	一般入試説明会(天王寺)	42
12月16日	クリスマスオープンキャンパス	233
3月19日	春のオープンキャンパス	321
総計		3,007

学外進学相談会 参画会場数

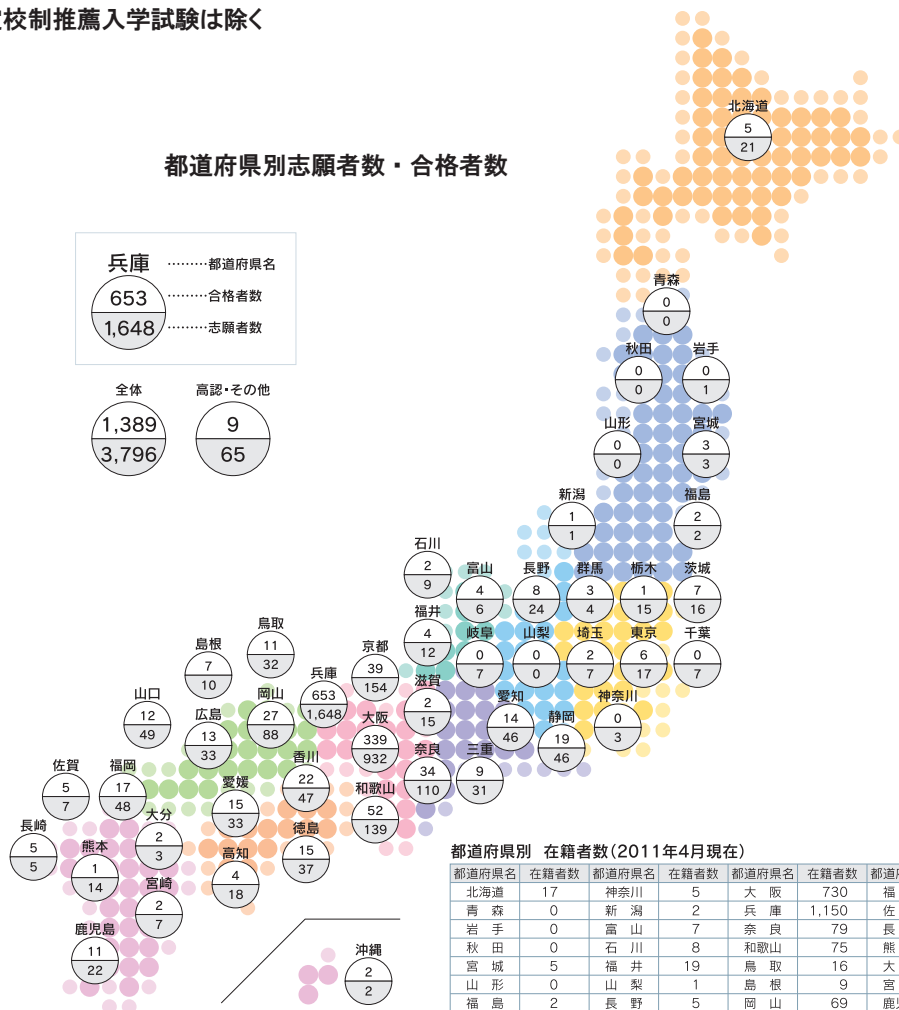
地区	対面	資料のみ	計
北海道	2	0	2
宮城	2	1	3
茨城	0	1	1
東京	1	0	1
富山	2	0	2
石川	2	3	5
福井	1	2	3
岐阜	0	1	1
静岡	4	6	10
愛知	3	3	6
三重	2	1	3
滋賀	1	0	1
京都	1	4	5
大阪	24	8	32
兵庫	27	4	31
奈良	1	2	3
和歌山	0	4	4
鳥取	1	3	4
島根	0	2	2
岡山	4	2	6
広島	4	3	7
徳島	5	1	6
香川	6	3	9
愛媛	2	1	3
高知	3	1	4
福岡	4	2	6
長崎	2	0	2
熊本	1	0	1
大分	1	0	1
鹿児島	1	0	1
総計	107	58	165

入試制度別状況

	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般入学試験前期A日程	759	748	249	3.0
一般入学試験前期B日程	693	681	185	3.7
一般入学試験前期C日程	463	324	114	2.8
一般入学試験前期D日程	センター1科目型	229	101	2.3
	センター2科目型	248	162	2.3
大学入試センター試験を利用する入学試験	2科目型	295	295	2.1
	3科目型	154	154	2.4
	4科目型	83	83	1.8
一般入学試験後期日程	147	136	26	5.2
公募制推薦入学試験	359	359	129	2.8
AO入学試験	15	15	7	2.1
帰国子女入学試験	2	2	2	1.0
社会人入学試験	0			
外国人留学生入学試験	0			
編入学試験	7	6	3	2.0

指定校制推薦入学試験は除く

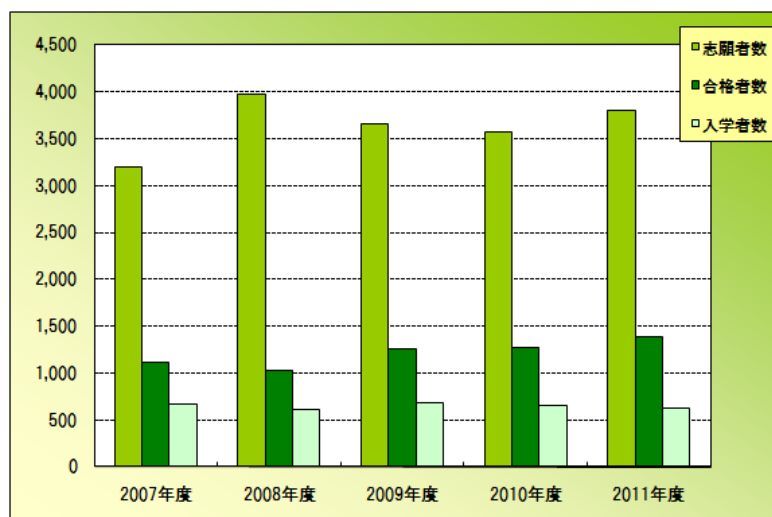
都道府県別志願者数・合格者数



都道府県別 在籍者数(2011年4月現在)

都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数	都道府県名	在籍者数
北海道	17	神奈川	5	大阪	730	福岡	31
青森	0	新潟	2	兵庫	1,150	佐賀	2
岩手	0	富山	7	奈良	79	長崎	13
秋田	0	石川	8	和歌山	75	熊本	7
宮城	5	福井	19	鳥取	16	大分	4
山形	0	山梨	1	島根	9	宮崎	8
福島	2	長野	5	岡山	69	鹿児島	8
茨城	9	岐阜	14	広島	29	沖縄	2
栃木	5	静岡	16	山口	20		
群馬	7	愛知	39	徳島	21		
埼玉	0	三重	15	香川	28		
千葉	1	滋賀	9	愛媛	25	その他	26
東京	4	京都	84	高知	21	合計	2,647

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
志願者数	3,204	3,969	3,660	3,573	3,816
合格者数	1,120	1,028	1,253	1,278	1,405
入学者数	672	615	687	651	629



● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
志願者数	53	44	64	55	46
合格者数	27	25	36	35	34
入学者数	24	24	32	32	32

博士後期課程

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
志願者数	4	7	5	2	1
合格者数	3	6	5	2	0
入学者数	3	6	5	2	0

● 神戸女学院中高部

中学部

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
志願者数	315	272	278	257	260
合格者数	155	155	158	157	150
入学者数	145	150	143	144	136

高等学部 全日制課程 普通科

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
志願者数	4	0	0	募集なし	募集なし
合格者数	3	0	0	—	—
入学者数	1	0	0	—	—

10 留学に関する状況

● 神戸女学院大学・大学院

[2010年度留学概況]

本学の創立以来、教育の根幹となってきた「国際理解の精神」を学生たちに体験してもらうために、2010年度も「学生の海外派遣」・「留学生の本学受入れ」を中心として様々な国際交流事業を計画・実施しました。

「留学生の本学受入れ」のためには、昨今、受入れ環境（履修科目・生活面のサポート）の整備が重要であることは論を俟ちません。そのため、2010年度も主として外国人留学生を対象に、茶道や華道などの日本文化を学ぶ“Introduction to Japanese Culture”および日本の現代事情を学ぶ“Current Issues in Japan”の2科目を国際交流センターで開講いたしました。（“Current Issues in Japan”は後期のみ）。どちらも英語で講義が行われ、本学の学生も履修できます。また、交換留学生をサポートする「留学生バディ制度」には今年度も多くの学生が参加し、初めて日本に来た外国人留学生に対して適切な生活・学習サポートを行いました。

残念ながら2010年度はワイオミング大学グループの来日が先方の事情により中止となりましたが、協定校であるミリアム大学（フィリピン）の学生グループが11月16日～30日（15日間）まで、本学を訪問しました。期間中はケンウッド館に滞在しながら、日本語研修や特別講義（英語で実施）を受講したほか、広島女学院大学のご厚意によって1泊2日の広島研修も行いました。講義や週末ホームステイ、歓送迎会等を通して交流が深まり、双方にとって非常に有意義でした。これ以外にもケネソー州立大学（米国）・セントジョセフ・カレッジ（インド）の学生を短期間受入れし、それぞれ学生たちとの交流の機会を持ちました。

「学生の海外派遣」においては「派遣留学・認定留学」「中期英語留学」「春期・夏期語学研修」という3段階のプログラムを実施していますが、学生の英語力が多様化している昨今、学生たちの留学希望をかなえるためには、語学教育面でのサポートが重要となってきています。そのため、2010年度も留学準備を目的として、TOEIC Preparation（ACクラス）、正課外の「留学対策講座」（有料、前後期

各1シリーズ約10回）を開講し、主としてTOEFLのスコアアップに努めました。今後は、留学先での学修に対応できる読解・作文能力の養成が課題となります。

学生全般の留学・国際交流への関心を喚起するためには、「留学説明会」「国際交流フェア」の実施、K-CLIPへの留学生ブログの掲載のほか、留学生バディを中心として交流パーティーを行うなど多角的な展開を心掛けています。

派遣留学については、2010年度はミリアム大学（フィリピン）へ初めて交換留学生2名を派遣しました。2011年度は徳成女子大学（韓国）へも留学生を派遣する予定です。このほか、海外の複数の大学と協定書の締結に向けての交渉を行っています。

また、2010年度から米国カリフォルニア大学アーバイン校における「中期海外研修」がスタートしました。参加者は7ヶ月間（8月～翌年3月）におよぶ英語の集中訓練を受講します。さらに、就職活動の早期化という昨今の社会状況に対応するため、2011年度からはカナダ・ウォータールー大学における4ヶ月間の研修（4月～8月）も導入します。「語学研修」では、2010年夏期から西オーストラリア大学での研修を開始しました。

この他、兵庫県国際交流協会主催の兵庫国際サマースクール（アジア若者塾）には本学から学生・院生5人が参加し、アジア太平洋地域の外国人学生や自治体職員、県内他大学の学生らと国際問題についての学習・ディスカッション（全て英語）を行い、異文化理解を深めました。

これからも「海外派遣」「留学生受入れ」の両面においてプログラムの改善を重ね、より良質な神戸女学院に相応しい国際交流事業を実施し、これらの経験を通して「国際理解の精神」を体得した学生たちを社会へと送り出してまいります。

本学から海外へ

	大学名	国名	人数	期間
派遣留学	ワイオミング大学	アメリカ	2	1年
	ロックフォード大学	アメリカ	1	1年
	梨花女子大学	韓国	2	1年
	広東外語外貿大学	中国	1	1年
	ミリアム大学	フィリピン	2	4ヶ月
長期派遣	国別集計	アメリカ	3	
		韓国	2	
		中国	1	
		フィリピン	2	
	計		8	

	大学名	国名	人数	期間
認定留学	ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校	イギリス	1	1年
	計		1	

	大学名	国名	人数	期間
中期英語留学	チャタム大学	アメリカ	6	7ヶ月
	計		6	

	大学名	国名	人数	期間
中期海外研修	カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	1	7ヶ月
	計		1	

	大学名	国名	人数
語学研修	夏期：カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	24
	夏期：西オーストラリア大学	オーストラリア	14
	夏期：サセックス大学	イギリス	13
	夏期：フランシュ・コンテ大学	フランス	9
	春期：クイーンズランド大学	オーストラリア	15
	春期：ヨーク大学	イギリス	23
	国別集計	アメリカ	24
		オーストラリア	29
		イギリス	36
		フランス	9
計		98	

本学から海外へ	総計	114
---------	----	-----

海外から本学へ

プログラム	大学名	国名	人数	期間	備考
交換留学	ワイオミング大学	アメリカ	3		総合文化学科 3名
	徳成女子大学	韓国	3		総合文化学科 3名 (前期1名・後期2名)
	広東外語外貿大学	中国	1		文学研究科 1名
科学技術 振興調整 費による 受入	華南師範大学	中国	1	1年	人間科学研究科 「地域からESDを推進する女 性環境リーダー育成プログラ ム」による受入
	ミリアム大学	フィリピン	3		
	サムラトランギ大学	インドネシア	1		
	ダナン工科大学	ベトナム	2		
	プトラ大学	マレーシア	2		
私費留学		中国	1	4年	心理・行動科学科 1名
		韓国	1	4年	総合文化学科 1名
長期受入	国別集計	アメリカ	3		
		中国	3		
		韓国	4		
		フィリピン	3		
		インドネシア	1		
		ベトナム	2		
		マレーシア	2		
計			18		

	大学名	国名	人数	期間	備考
JLCP	ミリアム大学	フィリピン	4	15日間	
SJCC	セントジョセフ・カレッジ・ オブ・コマース	インド	4	8日間	
	ケネソー州立大学	アメリカ	17	4日間	
短期受入	計		25		

海外から本学へ	総計	43	
---------	----	----	--

● 神戸女学院高等学部

本学から海外へ

	学校名	国名	人数	期間
公認留学	Zachary High School	アメリカ	1	1年間
	KS Zuercher Oberland	スイス	1	1年間
	Methodist Ladies' College	オーストラリア	1	1年間
	計			3

海外から本学へ

国名	人数	期間
オーストラリア	2	3ヶ月
アメリカ	1	3ヶ月
ハンガリー	1	1年間
タイ	1	1年間
計	5	

11 卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況

● 神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部				計
	英文学科	総合文化 学科	音楽学科	人間科学科		心理・行動 科学科	環境・バイオ サイエンス学科	
				人間行動 科学専攻	人間環境 科学専攻			
2006年	171	243	50	101	93	—	—	658
2007年	158	224	49	108	82	—	—	621
2008年	164	228	49	8	—	78	91	618
2009年	147	218	55	2	—	109	83	614
2010年	162	220	51	1	—	98	95	627

2008年度（人間科学部）からは学科改編後の卒業生数、2010年度については前期末卒業を含まない

● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科				音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	日本文化学 専攻	比較文化学 専攻	音楽芸術 表現専攻	人間科学専攻	
2006年	7	1		3	7	16	34
2007年	10	2		6	6	12	36
2008年	7	2		4	7	6	26
2009年	2	—		4	7	12	25
2010年	6	1		1	4	12	24

2010年度については前期末卒業を含まない

博士後期課程

博士後期満期退学

	文学研究科		人間科学 研究科	計
	英文学 専攻	比較文化 学専攻	人間科学 専攻	
2006年	—	1	2	3
2007年	2	—	1	3
2008年	3	2	1	6
2009年	1	4	—	5
2010年	2	2	—	4
博士後期課程設置当初からの累計				

博士学位授与

	文学研究科		人間科学 研究科	計
	英文学 専攻	比較文化 学専攻	人間科学 専攻	
2006年	—	—	3	3
2007年	—	—	1	1
2008年	—	—	—	—
2009年	—	—	1	1
2010年	1	—	1	2
博士後期課程設置当初からの累計				

● 神戸女学院中高部

	中学部
2006年	145
2007年	147
2008年	152
2009年	142
2010年	149

	高等学部
2006年	133
2007年	183
2008年	141
2009年	138
2010年	147

12 就職・進学状況等

● 神戸女学院大学

[2010年度就職概況]

2009年は「就職氷河期」再来と言われましたが2010年はさらに深刻な状況で、特に女子学生の就職活動は厳しいものとなりました。従来であれば内定しているような、意識も高くしっかりした学生でも苦戦するケースが見られ、採用側の厳選姿勢を強く感じました。そういう厳しい状況ではありましたが、就職内定率（決定者／就職希望者）は最終的に90.5%で、やや持ち直した結果となりました。決定先業種は金融を中心に製造、卸売・小売、サービスと大きな変化は見られません。本学から2名以上内定者が出た企業のうち40%が金融業界であり、一般職採用を減少させたところが多いにもかかわらず、金融人気は根強いと言えます。製薬業界でのMR職、病院での事務職が増加傾向にあります。今年度本学への求人件数は5月の時点では昨年比72%でしたが、3月には昨年比95%まで回復しています。

就職活動の早期化・長期化が大学の教育現場に与える影響が大きくなり、これを是正しようという動きが経済界からも出ていますが、内定ピークの6月以降に活動を続ける学生も多く、長期化は避けられない状況でした。長期にわたりモチベーションを保ち前向きに就職と取り組むことは、大変な精神力を必要とします。諦めの気持ちが強くなる学生に対し、キャリアセンターでの個別相談の徹底、専門のキャリアアドバイザーとの面談、面接指導、ES添削等の支援を行ってきました。特にキャリアアドバイザーは人数増加を行い、待ち時間を短縮できるような体制を組んでいます。またハローワークとの連携で、学内での求人紹介、個別相談会の企画・実施をいたしました。

企業が厳選採用を続ける中では自己PRの上手な学生が次のステップへ進めることになり、本来は優れているがおとなしく目立たない学生が選考にもれることが多々あるため、自分らしさを十分に伝えることが出来る自己PRを考えることが課題となってきます。また企業・業界研究が不足しており、志望動機を自身の言葉で十分伝えることができない学生が多く、新たに業界研究講座を3回設けて理解度

アップをはかりました。次年度に向けては、面接対策個別相談会の実施、企業・業界研究講座の拡充など、キャリアセンターでの取組みをより充実させることで学生支援を強化していきます。

● 3年生対象キャリア支援プログラム実施状況

就職ガイダンス	
6月11日(金)	就職活動概要／就活マナー
6月18日(金)	就職活動のポイント
6月25日(金)	自己分析：就職活動の壁の乗り越え方
9月21日(火)	情報収集のしかた
10月 8日(金)	業界研究・職種研究
11月10日(水)	エントリーシート・履歴書の書き方
1月12日(水)	面接試験について
1月21日(金)	直前対策／面接・内定について

就職セミナー	
9月24日(金)	就職マナー講座
10月 1日(金)	新聞の読み方
11月 5日(金)	人事採用担当者からのアドバイス
12月11日(土)	SPI 対策講座

夏期就職対策講座	
8月 2日(月)	自己分析ワークショップ
8月 3日(火)	グループディスカッション 実践講座
8月4日(水) ～6日(金)	SPI 集中対策講座 ※有料
9月15日(水) ～17日(金)	就職文章力アップ講座 ※有料

業界研究講座		
10月15日(金)	10月22日(金)	10月28日(木)
業界研究セミナー		
11月19日(金)	11月26日(金)	12月3日(金)
12月10日(金)	12月17日(金)	

その他	
7月 2日(金)	適性テスト
7月29日(木)	適性テストフォローアップセミナー
7月 3日(土)	SPI 模擬試験 ※有料
12月25日(土)	SPI 模擬試験 ※有料
12月18日(土)	第1回面接対策実践講座 ※有料
2月22日(火) ～23日(水)	第2回面接対策実践講座 ※有料
12月24日(金)	エントリーシート直前対策講座 ※有料
2月2日(水) ～9日(水)	学内企業セミナー 42社
2月18日(金)	学内合同企業セミナー 12社

就職活動体験報告会(11月)、県別就職活動アドバイス会(12月)、8月～12月 ミニガイダンス 自己分析、留学と就職活動など

7月 インターンシップマナー講座

●他学年対象キャリア支援プログラム実施状況

4年生対象	
6月	就活応援セミナー
8月	面接対策・企業研究講座
2年生対象	
12月15日(水)	キャリアガイダンス
1年生対象	
10月26日(火)	キャリアガイダンス
11月19日(金)	適性テスト
12月10日(金)	適性テストフォローアップガイダンス

学年不問
6月4日(金) キャリア講座「エアラインセミナー」
7月、10月 OG懇談会、OG講演会
・秘書技能検定講座 2級・準1級 春期・夏期2回実施
・TOEIC 対策講座 春期・夏期集中講座
・公務員受験対策講座 春期・夏期集中講座
10月～3月 キャリアアドバイザーによる個別相談

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
卒業生数	652	613	606	614	625
希望者数	547	530	493	504	486
決定者数	541	524	485	446	440
進学者数	23	26	31	36	30

※前期末卒業を含まない

主な就職先(2010年度)

企業名	企業名	企業名
(株)三井住友銀行	バイエル薬品(株)	きのくに信用金庫
明治安田生命保険(相)	(株)イプサ	大和証券(株)
野村證券(株)	西日本旅客鉄道(株)	住友生命保険(相)
日本生命保険(相)	(株)神明	三井住友海上火災保険(株)
東京海上日動火災保険(株)	ダイネン(株)	(社)明石市医師会立明石医療センター
大阪大学大学院 医学系研究科	ダイワボウ情報システム(株)	あずさ監査法人
(株)竹中工務店	(株)ジェイアール西日本伊勢丹	高見(株)
パナソニック電気(株)	(株)グリップアソシエ	ダイキン工業(株)
(株)ANAエアサービス東京	(株)ヨドバシカメラ	シャープ(株)
上新電機(株)	三共(株)	三菱電機(株)
(株)三菱東京UFJ銀行	(株)紀陽銀行	富士通(株)
日興コーディアル証券(株)	(株)みずほフィナンシャルグループ	(株)TBSテレビ
医療法人三慧会	(株)関西アーバン銀行	(株)ベネッセコーポレーション
(株)フォクシー	(株)山口銀行	シンガポール航空
凸版印刷(株)	姫路信用金庫	神戸市高校教員

人数の多い順に記載

進学先(2010年度)

学校名	人数	学校名	人数
神戸大学大学院 農学研究科	1	京都ノートルダム女子大学大学院 心理学研究科	1
奈良女子大学大学院 人間文化研究科	1	東京女子大学大学院 文学研究科	1
兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科	2	神戸女学院大学大学院 人間科学研究科	8
立命館大学大学院 言語教育情報研究科	2	神戸女学院大学大学院 文学研究科	6
立命館大学大学院 文学研究科	1	神戸女学院大学大学院 音楽研究科	6
京都文教大学大学院 臨床心理学研究科	1		

年度毎の就職決定状況

		卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	決定者／ (卒業生－進学者)
2006年度	英文	170	156	155	99.4%	4	93.4%
	総合文化	242	209	207	99.0%	6	87.7%
	音楽	47	23	21	91.3%	8	53.8%
	人間行動	100	82	81	98.8%	3	83.5%
	人間環境	93	77	77	100.0%	2	84.6%
	総計	652	547	541	98.9%	23	86.0%
2007年度	英文	154	145	143	98.6%	3	94.7%
	総合文化	221	204	202	99.0%	1	91.8%
	音楽	49	16	15	93.8%	7	35.7%
	人間行動	107	92	92	100.0%	10	94.8%
	人間環境	82	73	72	98.6%	5	93.5%
	総計	613	530	524	98.9%	26	89.3%
2008年度	英文	160	140	139	99.3%	2	88.0%
	総合文化	222	191	186	97.4%	5	85.7%
	音楽	49	26	25	96.2%	6	58.1%
	心理・行動	84	62	61	98.4%	8	80.3%
	環境・バイオサイエンス	91	74	74	100.0%	10	91.4%
	総計	606	493	485	98.4%	31	84.3%
2009年度	英文	147	126	108	85.7%	7	77.1%
	総合文化	218	189	163	86.2%	7	77.3%
	音楽	55	26	26	100.0%	8	55.3%
	心理・行動	111	91	82	90.1%	9	80.4%
	環境・バイオサイエンス	83	72	67	93.1%	5	85.9%
	総計	614	504	446	88.5%	36	77.2%
2010年度	英文	160	128	123	96.1%	8	80.9%
	総合文化	220	182	159	87.4%	2	72.9%
	音楽	51	19	16	84.2%	6	35.6%
	心理・行動	99	79	72	91.1%	7	78.3%
	環境・バイオサイエンス	95	78	70	89.7%	7	79.5%
	総計	625	486	440	90.5%	30	73.9%

前期末卒業を含まない 進学者：大学院進学者のみ（海外大学院含む）

● 神戸女学院中高部

進学状況は公表していません。

Ⅲ. 財務の概要

1 2010年度決算の概要

消費収支において、帰属収入の部は、在校生数の増による学生生徒等納付金の増加はあったものの、大学等GP事業の終了による補助金収入の減、及び前年度特殊要因（土地・建物の現物寄付）剥落による寄付金収入の減などにより、前年度比1億40百万円減の54億20百万円となりました。

消費支出の部は、人件費や教育研究経費の減により、前年度比1億84百万円減の47億61百万円となりました。

以上により、帰属収支差額は、6億58百万円の収入超過となり、帰属収支差額比率も、12.2%と目標値である8.0%を大きく上回る結果となりました。

さらに、基本金は、文学部2号館・デフォレスト記念館エレベータ設置工事（40百万円）、音楽学部1号館耐震補強・改修工事（8百万円）等の建物支出などにより、2億62百万円を組入れ、当年度の消費収支差額は、3億96百万円の消費収入超過と

なりました。

ただし、依然として2億22百万円の繰越支出超過があり、2011年度にはメアリー・アンナ・ホルブルック記念館（以下「ホルブルック館」と記載）の建設及び情報処理関連教室やネットワーク関連設備の更新等により、再び大幅な繰越消費支出超過が見込まれるなど、継続的な収支均衡には至っておらず、引き続きこの解消に向けた努力を進めてまいります。

また、資金収支において、収入の部は、補助金収入などの減により、減収となりました。一方、支出の部は、退職金支出の減に加えて、大規模な改修工事が少なかったことなどもあり、修繕費及び施設・設備関係支出が減少しました。その結果、支払資金は、前年度比3億33百万円増の29億21百万円を次年度に繰り越すこととなりました。

2 資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における当年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当年度における現金・預金の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。

大科目レベルの資金収支計算書は、表1のとおりとなりました。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2010年度の本学院の資金収支計算書の概要について**補正後の予算と対比**しながら以下に記載します。

収入の部

【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、概ね予算どおりの42億83百万円となりました。

【手数料収入】

入学検定料などによる手数料収入は、2011年度入試受験者数が予測を上回ったため、予算比6百万円増の97百万円となりました。

【寄付金収入】

本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教職員などからの寄付による寄付金収入は、予算比8百万円減の72百万円となりました。なお、資金収支計算書には、現預金の動きを伴わない現物寄付金は含まれていません。

【補助金収入】

国や地方公共団体等からの補助金収入は、私立大学等経常費特別補助金の圧縮率が前年度より改善されたことにより、予算比14百万円増の5億62百万円となりました。

【資産運用収入】

資産運用については、定期預金や国債・地方債・政府関係機関債・一部の事業債を中心に、リスク管理に努めながら利回り向上を図り、予算比4百万円増の1億15百万円となりました。

【資産売却収入】

車両の処分に伴う少額の売却収入のみです。

【事業収入】

事業収入は、ほぼ予算どおりの109百万円となりました。主な内容は、学生寮の寮費収入や受託事

業収入などによるものです。

【雑収入】

雑収入は、主に私学退職金財団からの交付金収入によるものであり、予算比4百万円増となりました。

【前受金収入】

2011年度の授業料や入学金などの前受金収入は、ほぼ予算どおりの8億5百万円となりました。

【その他の収入】

その他の収入は、予算比23百万円増の3億61百万円となりました。今年度は、退職給与引当金の減少に伴い、退職給与引当特定資産の一部取崩しを行いました。

支出の部

【人件費支出】

教職員の給与・賞与や退職金の支払いによる人件費支出は、ほぼ予算どおりの30億67百万円となりました。

【教育研究経費支出】

教育研究のために支出した経費は、予算比16百万円の減となりました。主として、消耗図書費支出の減によるものです。

【管理経費支出】

管理経費は、ほぼ予算どおりの2億84百万円となりました。

【借入金等利息支出】

借入金等利息支出の29百万円は、阪神・淡路大震災復興などを目的とした日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の支払利息額です。

【借入金等返済支出】

前記、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の契約に基づく約定返済額です。

【施設関係支出】

土地、建物や構築物などへの支出である施設関係支出は、予算比8百万円の減の1億円となりました。主に、文学部2号館・デフォレスト記念館エレベータ設置工事(40百万円)、音楽学部1号館耐震補強・改修工事(8百万円)等の建物支出などです。

【設備関係支出】

教育研究用の機器備品や資産計上する図書などへの支出である設備関係支出は、実験機器(15百万円)、文学館のL25・26教室机・椅子及び視聴

覚設備改修(5百万円)、中高部1号館会議室机・椅子(4百万円)、同館ロッカー(4百万円)などへの支出により、予算比5百万円増の92百万円となりました。

【資産運用支出】

資産運用支出は、予算比14百万円減の4億35百万円となりました。主な内訳としては、減価償却引当特定資産の積増し分(300百万円)です。

(表1)資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	対前年比増減 (A)-(B)	対前年比増減要因
学生生徒等納付金収入	4,284	4,283	4,262	21	在校生数の増加により、前年比21百万円の増となりました。
手数料収入	91	97	96	1	入学検定料などの手数料収入は、大学志願者数が順調に推移したことから、前年度並みを確保しています。
寄付金収入	80	72	74	△ 2	主に、教育振興会を通じての寄付が中心で、ほぼ前年度並みの収入となりました。
補助金収入	548	562	619	△ 57	大学、大学院GP事業の終了による減(38百万円)や施設整備費補助金の減(22百万円)等により、今年度は57百万円の減となりました。
資産運用収入	111	115	103	12	資産運用収入は、リスク管理を図りながら、債券の構成比を高めるなど、2007年度から行ってきた運用方法の見直しの効果などにより、運用利回りが上昇しました。
資産売却収入	0	0	393	△ 393	今年度は、専断の処分に伴う少額の売却収入のみです。(前年度は、主に、利回り向上を目的とした有価証券の入替によるものです。)
事業収入	110	109	87	22	人間科学部ESD関連の委託事業収入による増(15百万円)や前年度の特殊要因(学生寮冷蔵庫の入替による支出(6百万円))がなくなったことなどにより、前年比22百万円の増となりました。
雑収入	174	178	179	△ 1	ほぼ前年度並みですが、今年度は、私学退職金財団交付金収入の減(12百万円)と中高部1号館に係る火災保険金による増などがありました。
前受金収入	801	805	825	△ 20	翌年度の授業料や入学金などの前受金収入の減は、大学入学者数が前年比約20名減少したことによるものです。
その他の収入	338	361	241	120	今年度は、退職給与引当特定資産の取崩(積増しとの純額で50百万円)と前期末未収入金収入(192百万円)などです。(前年度は、退職給与引当特定資産の取崩(47百万円)がありました。)
資金収入調整勘定	△ 979	△ 980	△ 1,056	76	2010年度大学入学者が2009年度に比べ約40名減少したことによる前期末前受金の減(38百万円)と私学退職金財団交付金収入や補助金収入等の期末未収入金の減(37百万円)などです。
前年度繰越支払資金	2,588	2,588	2,299	289	前期末の現金と預金の残高です。
収入の部合計	8,147	8,194	8,126	68	
支出の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	対前年比増減 (A)-(B)	対前年比増減要因
人件費支出	3,069	3,067	3,134	△ 67	主に、前年度は、勤続年数の長い退職者に対する退職金支出が大きかったため、今年度の人件費支出は減となりました。
教育研究経費支出	1,083	1,067	1,176	△ 109	主として、修繕費(前年度は、第一体育館耐震補強・改修工事等)やリース料(情報処理関連教室等)の減によるものです。
管理経費支出	284	284	283	1	ほぼ、前年度並みの支出となりました。
借入金等利息支出	29	29	32	△ 3	約定返済に伴う借入金元本の減少によるものです。
借入金等返済支出	122	122	122	0	約定返済によるものです。
施設関係支出	108	100	169	△ 69	今年度は、文学部2号館・テフリスト記念館エレベータ設置工事(40百万円)、音楽学部1号館耐震補強・改修工事(8百万円)などの建物支出等によるものです。
設備関係支出	87	92	114	△ 22	実験機器(15百万円)、文学館L25・26教室机・椅子及び視聴覚設備改修(5百万円)、中高部1号館会議室机・椅子(4百万円)などの教育研究用機器備品(50百万円)、図書支出(28百万円)等です。
資産運用支出	449	435	471	△ 36	今年度は、減価償却引当特定資産(300百万円)と第3号基本引当資産(60百万円)の積増しに加え、新たに岡田山キャンパスの保存を目的とした特定資産の計上(25百万円)等です。
その他の支出	203	196	181	15	主に、前期末未払金支払支出の増(20百万円)によるものです。
資金支出調整勘定	△ 132	△ 124	△ 147	23	主に、期末未払金の減(35百万円)と前期末前払金の増(12百万円)によるものです。
次年度繰越支払資金	2,843	2,921	2,588	333	以上の結果、当期末の現金と預金の残高は、前期比333百万円の増加となりました。
支出の部合計	8,147	8,194	8,126	68	

3 消費収支計算書

消費収支計算書は、学校法人における当年度の消費収入（学校法人の負債とならない収入である帰属収入から基本金に組入れる額を控除して計算するもの）・消費支出（当該年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するもの）の内容及び均衡状態を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。学校法人は営利法人ではないため、基本金組入れを行った後の消費収入と消費支出が長期的にほぼ同額でつり合うことが望ましいとされています。

大科目レベルの消費収支計算書は、表2のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2010年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

消費収入の部

【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付（0.8百万円）が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。これにより帰属収入の合計は、予算比21百万円増の54億20百万円となりました。

【基本金組入額】

第1号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組み入れる）へ1億99百万円組入れました。（この額は、基本金組入額（2億1百万円）と基本金取崩額（2百万円）の合計です。今年度は、学校法人部門で除却額等が取得額を上回ったため、基本金取崩額を計上しています。）

主な内訳としては、文学部2号館・デフォレスト記念館エレベータ設置工事（40百万円）、音楽学部1号館耐震補強・改修工事（8百万円）などの建物関係で71百万円、図書27百万円、施設関係への借入金返済分87百万円などです。

第3号基本金（奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる）へ60百万円組入れました。

【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比58百万円増加し、51億57百万円となりました。

消費支出の部

【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出（1億84百万円）を控除し、退職給与引当金繰入額（1億34百万円）を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金支出の各経費支出に減価償却額（計3億52百万円）を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、予算比18百万円減の47億61百万円となりました。

(表2)消費収支計算書

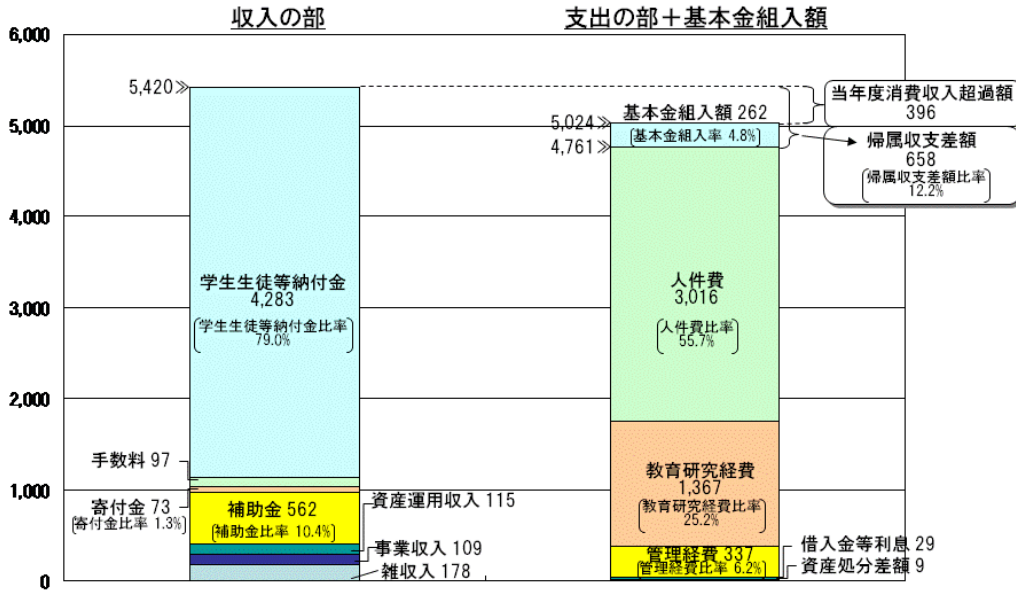
(単位:百万円)

消費収入の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	対前年比増減 (A)-(B)	対前年比増減要因
学生生徒等納付金	4,284	4,283	4,262	21	資金収支計算書と同様です。
手数料	91	97	96	1	
寄付金	80	73	210	△ 137	前年度は、土地・建物の現物寄附金(130百万円)がありました。
補助金	548	562	619	△ 57	資金収支計算書と同様です。
資産運用収入	111	115	103	12	
資産売却差額	—	—	0	0	今年度は、資産売却差益はありません。
事業収入	110	109	87	22	資金収支計算書と同様です。
雑収入	174	178	179	△ 1	
帰属収入合計	5,399	5,420	5,560	△ 140	以上の要因により、前期比140百万円の減となりました。
基本金組入額合計	△ 300	△ 262	△ 161	△ 101	今年度は、主に、文学部2号館・デフォレスト記念館エレベータ設置工事(40百万円)、音楽学部1号館耐震補強工事(8百万円)などの建物支出等によるものです。
消費収入の部合計	5,099	5,157	5,398	△ 241	消費収入の部合計は、前期比241百万円減となりました。
消費支出の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	対前年比増減 (A)-(B)	対前年比増減要因
人件費	3,019	3,016	3,084	△ 68	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
教育研究経費	1,381	1,367	1,480	△ 113	資金収支計算書に減価償却費(300百万円)を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
管理経費	337	337	335	2	資金収支計算書に減価償却費(52百万円)を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	29	29	32	△ 3	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	12	9	11	△ 2	今年度は、大きな設備の除却はありませんでした。
消費支出の部合計	4,779	4,761	4,945	△ 184	消費支出の部合計は、前期比184百万円の減となりました。
当年度消費収入 (△支出)超過額	319	396	453	△ 57	以上により、当年度の消費収支は、前年度比57百万円の減となりました。
前年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 621	△ 621	△ 1,093	472	
基本金取崩額合計	—	2	18	△ 16	今年度は、学校法人部門において除却額等が取得額を上回ったことによる第1号基本金からの取崩です。
翌年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 301	△ 222	△ 621	399	上記の結果、消費収支差額の部は、前年度より399百万円増加し、222百万円の繰越消費支出超過となりました。
帰属収支差額	619	658	614	44	帰属収入合計から消費支出の部合計を差し引いたもので、学校の施設設備等の取得財源や借入金の返済財源となります。(企業会計上の当期利益金にほぼ相当するものです。)

(図1)

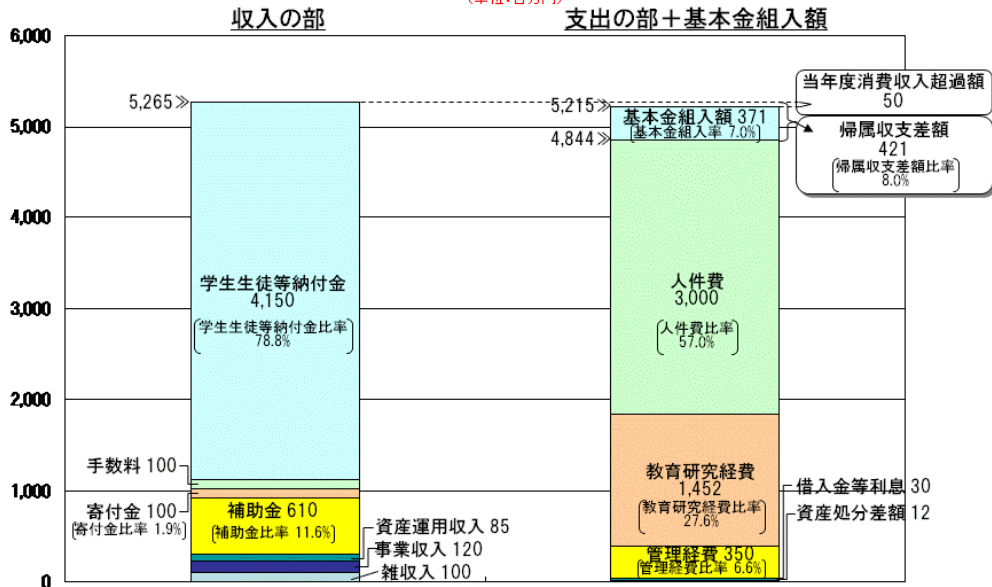
2010(平成22)年度消費収支の概要

(単位:百万円)



2008~2012年度 目標消費収支の概要

(単位:百万円)

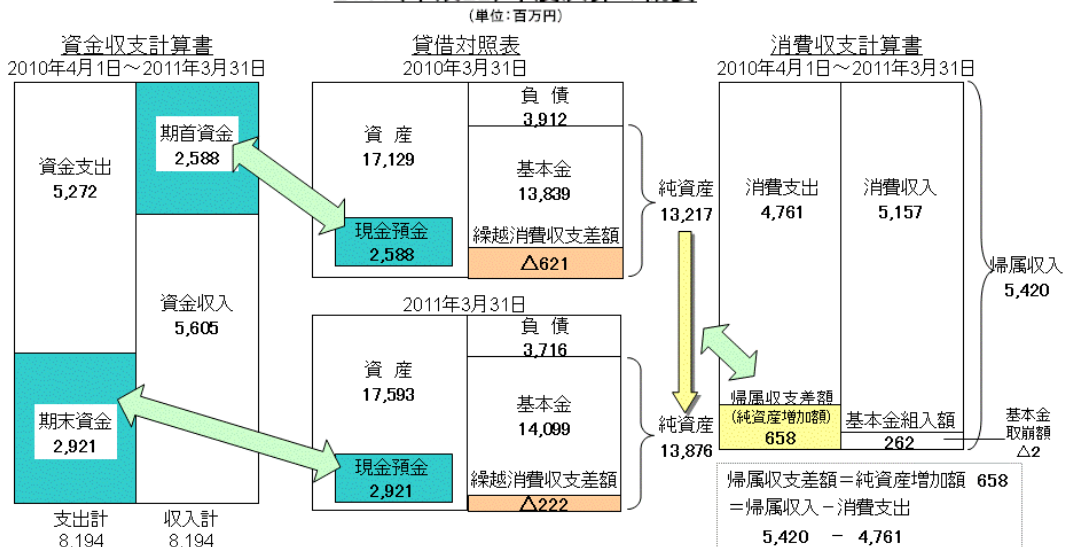


(表3)消費収支内訳表(2010(平成22)年度)

消費収入の部					消費支出の部						
科目	部門	学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部	神戸女学院 中学部	科目	部門	学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部	神戸女学院 中学部
学生生徒等納付金		-	3,643	298	340	人件費		60	2,383	317	255
手数料		-	90	0	6	教育研究経費		-	1,127	122	117
寄付金		-	55	9	9	管理経費		10	298	13	15
補助金		-	350	105	107	借入金等利息		-	23	3	3
資産運用収入		-	88	13	13	資産処分差額		0	6	1	1
事業収入		-	109	-	-	消費支出の部合計		70	3,839	459	392
雑収入		-	128	36	14						
帰属収入合計		-	4,465	463	491	帰属収支差額		△ 70	626	4	98
基本金組入額合計		-	△ 230	△ 16	△ 15	消費収支差額		△ 70	396	△ 12	83
消費収入の部合計		-	4,235	446	475						

注)学校法人部門は、昭和55年11月4日付文管企第250号「資金収支内訳表等の部門別計上及び配分について(通知)」により、限定列举された範囲の取引を計上しています。(いわゆる法人本部業務に係る取引よりも限定された範囲の取引を計上することとなります。例えば、理事会や役員等の庶務に関するなどが該当します。)

(図2) 2010(平成22)年度決算の概要



- ① 資金収支計算書: 学校法人のその年度の教育研究活動やこれに付随する活動に対応するすべての収入と支出の内容を明らかにし、現金預金の1年間(4月1日～3月31日)の動きを表すものです。
- ② 消費収支計算書: 学校法人の1年間(4月1日～3月31日)の収支状況を表すものです。帰属収入と消費支出の内容を明らかにし、また消費支出が消費収入により賄われているかを表します。
 「基本金」: 取得した施設設備(第1号) + 施設設備の将来取得に向けた先行組入れ(第2号) + 各種基金(第3号) + 運転資金(第4号) ⇒ 帰属収入のうち、学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべき額として決定した金額
- ③ 貸借対照表: 年度末における学校法人の資産、負債の内容、純資産(資産-負債)の額を明らかにするものです。また、基本金(維持すべき金額)に対する純資産の過不足状態を消費収支差額として表します。

注: 単位未満を切捨表示しているため、内訳等を加算したものと合計等は一致しません。

4 貸借対照表

貸借対照表は、貸借対照表日（2011年3月31日）における学校法人の財政状態を明らかにするために作成します。大科目レベルの貸借対照表は、表4のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表

示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）2010年度の本学院の貸借対照表の概要は以下のとおりです。

(表4)貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増 減 (A)-(B)	増減要因等
固定資産	14,484	14,314	170	
有形固定資産	8,412	8,587	△ 175	
土地	1,205	1,205	0	
建物	4,341	4,475	△ 134	主に、減価償却による減少です。
構築物	530	562	△ 32	主に、減価償却による減少です。
教育研究用機器備品	418	461	△ 43	主に、減価償却による減少です。
その他の機器備品	21	25	△ 4	主に、減価償却による減少です。
図書	1,884	1,856	28	図書の購入等による増加です。
車両	0	0	0	
建設仮勘定	9	0	9	ホルブルック館に係る地盤調査等によるものです。
その他の固定資産	6,072	5,727	345	
教育研究用ソフトウェア	19	12	7	
電話加入権	3	3	0	
有価証券	428	428	0	内容は、地方債、政府関係機関債です。
差入保証金	3	3	0	
出資金	27	27	0	
長期貸付金	—	0	0	
貸与奨学金	302	299	3	
退職給与引当特定資産	1,560	1,610	△ 50	将来の退職金の支払を想定した特定資産です。引当金の減少により取崩しました。政府関係機関債や一部の事業債等で運用しています。
減価償却引当特定資産	3,136	2,836	300	減価償却対象資産の将来の更新を目的とした特定資産への積増しによる増加です。政府関係機関債や一部の事業債等で運用しています。
岡田山建築保存引当特定資産	25	—	25	岡田山キャンパスの創建建築保存のための費用に充てることを目的とした特定資産です。内容は銀行預金です。
第3号基本金引当資産	564	503	61	第3号基本金に係る資産です。政府関係機関債や銀行預金で運用しています。
その他	0	—	0	自動車リサイクル費用に係る預託金です。
流動資産	3,108	2,814	294	
現金預金	2,904	2,569	335	現預金は、前期比335百万円増の2,904百万円となりました。
修学旅行費預り資産	17	18	△ 1	現預金のうち、中高部の修学旅行等費用の預り金に対応する額を区分して表示しています。
未収入金	155	192	△ 37	未収入金は、主に補助金や私学退職金財団からの交付金収入です。
短期貸付金	0	0	0	
前払金	30	32	△ 2	前払金は、主に翌年度半期分の教職員通勤手当支給分やシステム関連保守費用の前払い分です。
仮払金	—	1	△ 1	
資産の部合計	17,593	17,129	464	以上により、資産の部合計は、前期比464百万円の増となりました。

(単位:百万円)

負債の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増 減 (A)-(B)	増減要因等
固定負債	2,544	2,722	△ 178	
長期借入金	972	1,095	△ 123	日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済による減少です。
退職給与引当金	1,560	1,610	△ 50	主に、勤続年数の長い教職員の退職によるものです。
長期未払金	11	16	△ 5	延払金の減少によるものです。
流動負債	1,171	1,189	△ 18	
短期借入金	122	122	0	借入金のうちの1年以内に返済予定のものです。
短期未払金	98	120	△ 22	
前受金	805	825	△ 20	翌年度の授業料や入学金などの前受金収入の減少は、大学入学者数が前年比約20名減少したことによるものです。
預り金	112	103	9	
修学旅行費預り金	17	18	△ 1	預り金のうち、中高部の修学旅行等費用分を区分して表示しています。
仮受金	15	—	15	本学院への帰属額が未確定の寄付金です。
負債の部合計	3,716	3,912	△ 196	

基本金の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増 減 (A)-(B)	増減要因等
第1号基本金	13,161	12,962	199	本年度の増加額は、学校法人が保有する固定資産のうち、新たに取得した基本財産を基本金として組入れた金額の合計です。今年度の増加は、主に建物、図書等によるものです。
第3号基本金	564	503	61	奨学基金などに組入れた金額の合計です。
第4号基本金	373	373	0	運営に必要な運転資金として恒常的に保持すべきとされる金額であり、教職員人件費支出、教育研究経費・管理経費支出及び借入金利息支出の1ヶ月分です。増減はありません。
基本金の部合計	14,099	13,839	260	

消費収支差額の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増 減 (A)-(B)	増減要因等
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 222	△ 621	399	消費収支差額の部は、前年度より399百万円増加し、2億22百万円の繰越消費支出超過となりました。
消費収支差額の部合計	△ 222	△ 621	399	

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増 減 (A)-(B)	増減要因等
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,593	17,129	464	

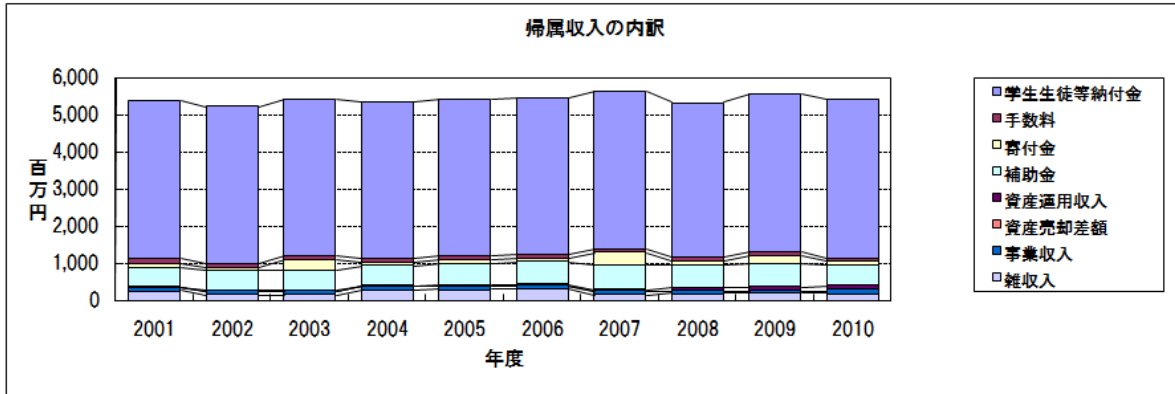
5 財務データの推移

過去10年間の消費収支計算書、貸借対照表の概要及び財務諸比率の推移は表5のとおりです。(本表では、消費収支計算書、貸借対照表は、単位未満

を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。また、財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています)

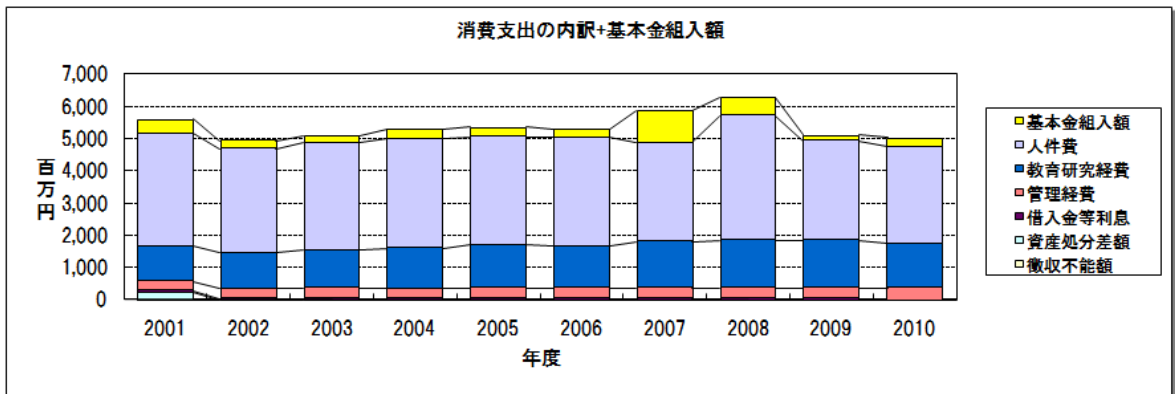
(表5)財務データ推移

①消費収支計算書関係



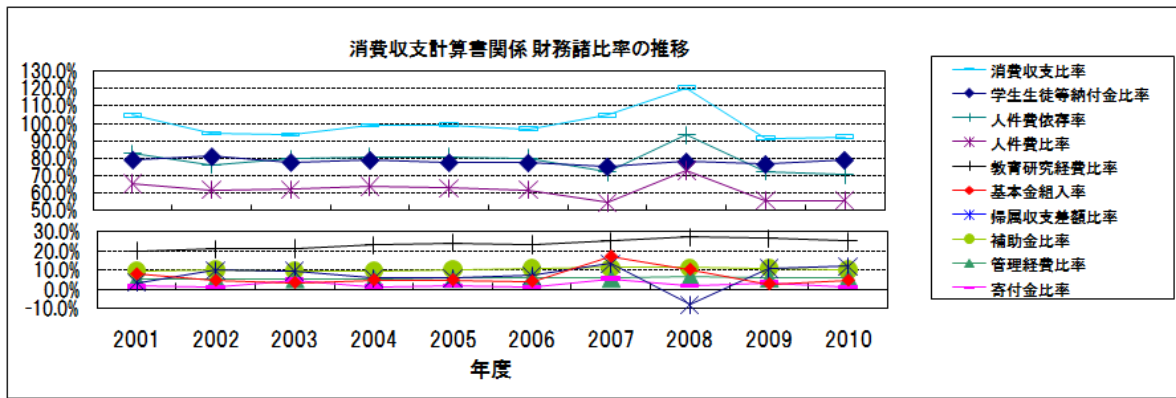
(年度、単位:百万円)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
学生生徒等納付金	4,245	4,238	4,210	4,220	4,189	4,229	4,245	4,154	4,262	4,283
手数料	128	111	119	113	104	106	105	99	96	97
寄付金	97	70	270	80	112	73	329	112	210	73
補助金	530	539	530	532	571	605	647	613	619	562
資産運用収入	22	18	23	26	28	37	53	76	103	115
資産売却差額	—	—	—	0	0	0	2	0	0	—
事業収入	100	94	101	101	105	100	102	95	87	109
雑収入	238	160	159	270	284	306	153	170	179	178
帰属収入合計	5,364	5,234	5,414	5,347	5,397	5,459	5,640	5,322	5,560	5,420
基本金組入額	△ 435	△ 250	△ 195	△ 271	△ 274	△ 233	△ 983	△ 560	△ 161	△ 262
消費収入の部合計	4,928	4,983	5,219	5,075	5,123	5,226	4,656	4,761	5,398	5,157



(年度、単位:百万円)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
人件費	3,502	3,230	3,353	3,412	3,381	3,374	3,060	3,876	3,084	3,016
教育研究経費	1,085	1,112	1,162	1,243	1,315	1,274	1,428	1,458	1,480	1,367
管理経費	281	288	307	309	321	351	331	360	335	337
借入金等利息	57	54	51	48	45	42	39	35	32	29
資産処分差額	239	18	13	7	13	17	12	6	11	9
徴収不能額	1	0	0	1	2	—	3	1	—	—
消費支出の部合計	5,167	4,704	4,888	5,022	5,078	5,059	4,876	5,738	4,945	4,761
帰属収支差額	196	529	526	324	319	399	763	△ 416	614	658
消費収支差額	△ 238	278	331	52	44	166	△ 220	△ 976	453	396



	(年度、単位：%)										
	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
人件費比率	65.3%	61.7%	61.9%	63.8%	62.6%	61.8%	54.3%	72.8%	55.5%	55.7%	
人件費依存率	82.5%	76.2%	79.6%	80.8%	80.7%	79.8%	72.1%	93.3%	72.4%	70.4%	
教育研究経費比率	20.2%	21.2%	21.5%	23.3%	24.4%	23.3%	25.3%	27.4%	26.6%	25.2%	
管理経費比率	5.2%	5.5%	5.7%	5.8%	6.0%	6.4%	5.9%	6.8%	6.0%	6.2%	
学生生徒等納付金比率	79.1%	81.0%	77.8%	78.9%	77.6%	77.5%	75.3%	78.1%	76.7%	79.0%	
寄付金比率	1.8%	1.4%	5.0%	1.5%	2.1%	1.4%	5.8%	2.1%	3.8%	1.3%	
補助金比率	9.9%	10.3%	9.8%	10.0%	10.6%	11.1%	11.5%	11.5%	11.2%	10.4%	
帰属収支差額比率	3.7%	10.1%	9.7%	6.1%	5.9%	7.3%	13.5%	△ 7.8%	11.1%	12.2%	
消費収支比率	104.8%	94.4%	93.7%	99.0%	99.1%	96.8%	104.7%	120.5%	91.6%	92.3%	
基本金組入率	8.1%	4.8%	3.6%	5.1%	5.1%	4.3%	17.4%	10.5%	2.9%	4.8%	

【参考】

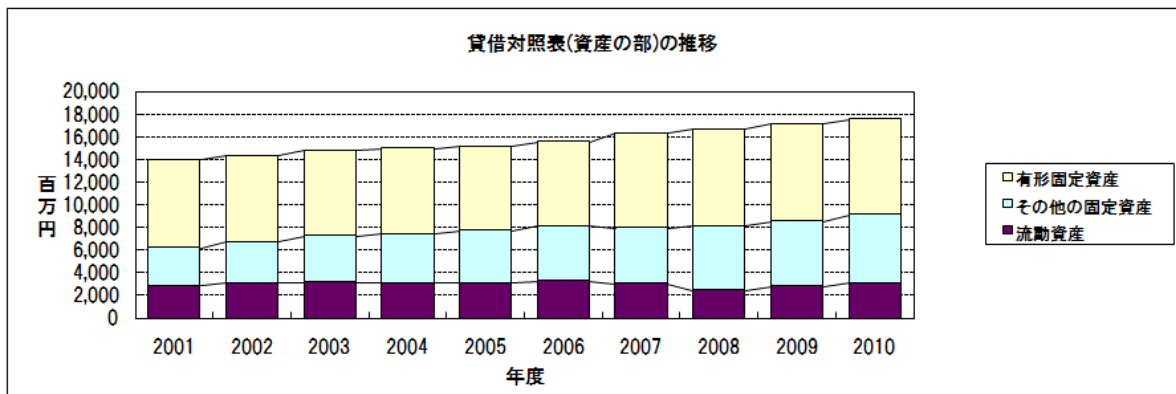
比率名	計算式	考え方	本学院 2010年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
人件費比率	人件費÷帰属収入×100	低い値が良い	55.7%	50.0%	52.6%	51.5%
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金×100	低い値が良い	70.4%	93.2%	72.4%	98.1%
教育研究経費比率	教育研究経費÷帰属収入×100	高い値が良い	25.2%	36.0%	30.9%	34.2%
管理経費比率	管理経費÷帰属収入×100	低い値が良い	6.2%	8.1%	10.3%	9.2%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷帰属収入×100	どちらとも言えない	79.0%	53.6%	72.7%	52.5%
寄付金比率	寄付金÷帰属収入×100	高い値が良い	1.3%	2.2%	2.5%	1.4%
補助金比率	補助金÷帰属収入×100	高い値が良い	10.4%	10.8%	12.9%	12.2%
帰属収支差額比率	(帰属収入－消費支出)÷帰属収入×100	高い値が良い	12.2%	3.7%	3.7%	3.6%
消費収支比率	消費支出÷消費収入×100	低い値が良い	92.3%	107.9%	110.8%	107.8%
基本金組入率	基本金組入額÷帰属収入×100	高い値が良い	4.8%	10.7%	13.1%	10.6%

資料：「平成22年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

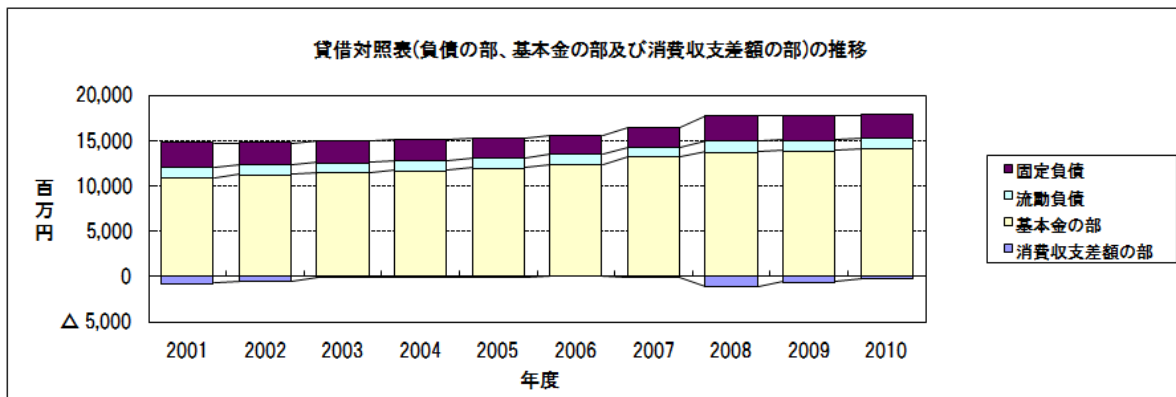
注1：全国平均(536大学法人)、全国平均(医歯系除く)(496大学法人)、同規模平均(106大学法人)は、2009(平成21)年度決算の平均値

注2：同規模平均は、学生生徒数3～5千人規模の大学法人の平均値

②貸借対照表関係

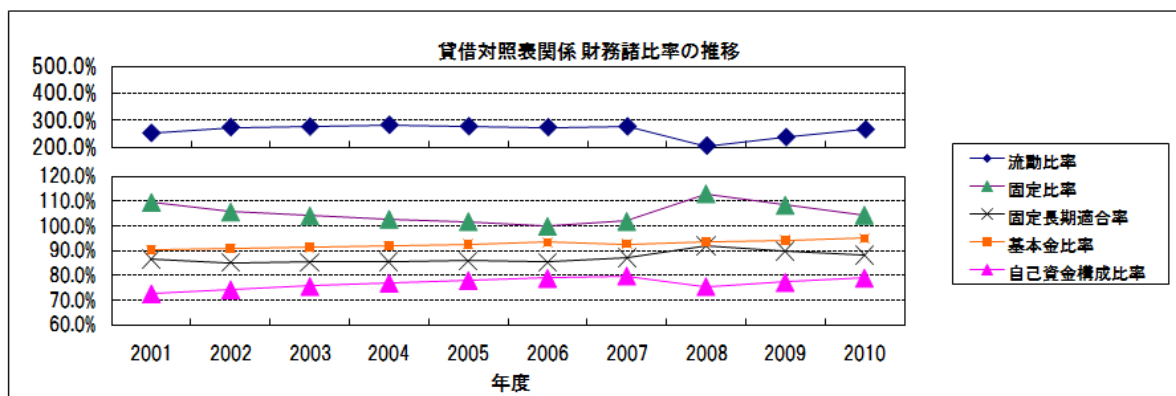


	(年度、単位：百万円)										
	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
有形固定資産	7,742	7,660	7,576	7,525	7,481	7,393	8,359	8,547	8,587	8,412	
その他の固定資産	3,373	3,627	4,088	4,324	4,584	4,850	4,895	5,681	5,727	6,072	
流動資産	2,874	3,098	3,176	3,146	3,139	3,315	3,067	2,458	2,814	3,108	



(年度、単位:百万円)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
固定負債	2,692	2,566	2,476	2,344	2,215	2,090	2,193	2,883	2,722	2,544
流動負債	1,141	1,133	1,153	1,115	1,133	1,213	1,110	1,199	1,189	1,171
基本金の部	10,932	11,183	11,378	11,649	11,923	12,156	13,135	13,696	13,839	14,099
消費収支差額の部	△ 775	△ 497	△ 166	△ 113	△ 68	98	△ 116	△ 1,093	△ 621	△ 222
【参考】自己資金 (基本金+消費収支差額)	10,156	10,685	11,211	11,536	11,855	12,255	13,018	12,602	13,217	13,876



(年度、単位:%)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
流動比率	251.8%	273.4%	275.3%	282.1%	276.8%	273.2%	276.2%	204.9%	236.6%	265.3%
固定比率	109.5%	105.6%	104.0%	102.7%	101.8%	99.9%	101.8%	112.9%	108.3%	104.4%
固定長期適合率	86.5%	85.2%	85.2%	85.4%	85.8%	85.3%	87.1%	91.9%	89.8%	88.2%
基本金比率	90.1%	90.8%	91.2%	91.8%	92.6%	93.3%	92.6%	93.6%	94.2%	94.9%
自己資金構成比率	72.6%	74.3%	75.5%	76.9%	78.0%	78.8%	79.8%	75.5%	77.2%	78.9%

【参考】

比率名	計算式	考え方	本学院 2010年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
流動比率	流動資産÷流動負債×100	高い値が良い	265.3%	229.5%	232.7%	282.3%
固定比率	固定資産÷自己資金×100	低い値が良い	104.4%	101.4%	100.0%	97.9%
固定長期適合率	固定資産÷(自己資金+固定負債)×100	低い値が良い	88.2%	91.7%	92.0%	89.3%
基本金比率	基本金÷基本金要組入額×100	高い値が良い	94.9%	96.6%	96.9%	97.0%
自己資金構成比率	自己資金÷総資金×100	高い値が良い	78.9%	85.0%	86.8%	86.2%

資料:「平成22年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

注1:全国平均(536大学法人)、全国平均(医歯系除く)(496大学法人)、同規模平均(106大学法人)は、2009(平成21)年度決算の平均値

注2:同規模平均は、学生生徒数3~5千人規模の大学法人の平均値

注3:自己資金=基本金+消費収支差額、総資金=負債+基本金+消費収支差額

IV. 事業計画

1 今後の運営方針及び2011年度予算編成について

神戸女学院はキリスト教信仰と国際理解の精神を教育の根幹とし、豊かな自然とヴォーリズ設計による校舎群が美しく調和する岡田山のキャンパスにおいてリベラルアーツ&サイエンス教育を実践し女子教育における先駆的な役割を果たしてきました。この全人教育の豊かな質と環境をさらに向上・発展させるため引き続き有効な事業計画を実施し、合わせてめざす教育事業の持続性を担保するべく財務基盤の強化を図ってまいります。

2010年度は大学において安定的な入学者があり学納金が増収に、さらに資金運用面においてもここ数年実施してきた運用見直しにより着実に増収基調を続けています。その結果、当初予算に比べ消費収支の好転が見込まれ財政面はやや回復基調となっています。昨今の厳しい経済情勢や学生定員管理の厳格化のもとでは学納金や手数料、寄付金及び補助金などにおいて収入増加を見込むことは極めて厳しい状況ですが、2011年度から心理・行動科学科の定員増（収容定員40名増）が認められ、学生数確保の安定化に更に寄与するものと期待されます。

2011年度はこれまでの継続事業に加え、新規の大規模事業として理系カリキュラムに資する複数の実験室ほか中規模教室等を備える新教育実験棟メアリー・アンナ・ホルブルック記念館（以下「ホル

ブルック館」と記載）の建設を行います。また情報処理センターが主管する情報処理関連教室の設備、認証システム及びネットワーク関連設備の更新・維持管理にも予算措置を行います。施設・設備面では、引き続き長期整備計画に基づく校舎の耐震化、岡田山移転当初のヴォーリズ校舎の整備改修、学内防火対策の強化等を順次実施してまいります。

これらの重点的新規事業等を要因として、2011年度予算編成においては繰越消費支出超過額が拡大する見通しで、2008年度に策定した「主要財務比率の目標値」に比して一部の指標がマイナス方向に乖離することとなります。予算上の主な財務比率は、人件費比率57.6%（目標値57.0%）、教育研究経費比率28.4%（同27.6%）、帰属収支差額比率6.5%（同8.0%）となります。

以上のような見通しですが、単年度の収支が健全な財務体質の継続的維持に及ぼす影響を極小化できるよう、今後とも予算執行の合理性、妥当性の吟味を厳格化し、無駄の排除、選択と集中を推進してまいります。

2 2011年度事業計画

教育・研究

a) 全学部「早期離職に歯止めをかけるキャリア支援」

平成21年度学生支援推進プログラム選定事業第3年次計画を実施します。

（補助金申請額6百万円）

b) 人間科学部「地域からESDを推進する女性環境リーダー」

平成21年度科学技術総合推進費補助金選定事業第3年次計画を実施します。

（補助金申請額18百万円）

c) 音楽学部「音大連携による教育イノベーション音楽コミュニケーション・リーダー養成に向けて」

平成21年度大学改革推進等補助金選定事業第3年次計画を実施します。

（補助金申請額10百万円）

d) 大学「副専攻制度」の整備

現代GPの選定期間が終了した3つのプログラム「キャリアデザインプログラム」「通訳プログラム」「地域創りリーダー養成プログラム」について、副専攻制度として整備・実施します。

その他の事業

a) 音楽学部「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」の実施

音楽学科舞踊専攻学生の年度学習の成果発表としての「舞踊年度公演」、4年間の習得の総まとめとしての「舞踊卒業公演」を実施します。

b) 大学「翻訳コンクール」実施

高校生を対象とした「翻訳コンクール」を実施します。

アップグレードなどの改修・更新を行います。

f) その他教育研究機器関係

テニスコートのフェンス取替や学生寮冷暖房機取替等を、中高部では、家庭科試食室のテーブル買換や中学部武道必修化に伴う多目的スポーツマット購入を実施します。

施設・設備

a) ホルブルック館の建設

教職課程設置等に伴う環境・バイオサイエンス学科の実験施設の拡充及び人間科学部での地域協働プロジェクト用施設としてホルブルック館を建設します。

b) 社交館耐震補強・サッシ改修

これまで旧耐震基準の校舎の耐震補強工事を順次実施してきており、本年度は社交館の工事を行います。また、当該工事に併せて、サッシの取替や外壁の改修等を実施します。

c) 防火設備等の充実

既設校舎の防火機能を充実するために、火災報知設備・放送設備の設置工事及び不燃天井材への取替工事を順次実施します。2011年度は中高部1号館、同2号館、コムセンター、及びデフォレスト記念館の放送設備の設置工事を行います。

d) 建物等の改修

カウンセリングルームの改修、中高部1号館の壁面塗装・サッシ改修、及び新社交館の熱源改修、総務館の冷暖房設備改修を実施します。

e) 情報処理・視聴覚関係

今年度は、大学の情報処理関連教室の設備、認証システム及びネットワーク関連設備の更新・維持を行います。

加えて、大学ジュリア・ダッドレー記念館102教室の視聴覚設備や中高部ITセンターのOSの

3 2011年度予算書

2011年度の資金収支予算書は表6、消費収支予算書は表7のとおりです。(本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。)

(表6)資金収支予算書

(単位:百万円)

収入の部					
科目	2010年度 予算	2010年度 決算(A)	2011年度 予算(B)	対決算比増減 (B)-(A)	2011年度当初予算の内容
学生生徒等納付金収入	4,284	4,283	4,196	△ 87	2011年度入試による入学者数を中学部140名、大学630名と見込み、前年度比87百万円減の予算としています。
手数料収入	91	97	90	△ 7	厳しい大学入試環境を考慮し、前年度比微減の予算としています。
寄付金収入	80	72	72	0	寄付金収入は、主として教育振興会を通じての一般寄付を計上しました。
補助金収入	548	562	530	△ 32	私立大学経常費補助金はIT関連の算定方法変更による減に加え、耐震化等の施設整備費補助金収入の減を見込んでいます。
資産運用収入	111	115	111	△ 4	金利水準の一層の低迷が2010年度から続いていることから、満期到来資金の再運用利回りの低下が見込まれることもあり、前年度比微減の予算としています。
資産売却収入	0	0	—	0	2011年度は、大きな資産の売却は予定していません。
事業収入	110	109	62	△ 47	2011年度は学生寮の冷暖房機の更新等を予定しているため、補助活動収入の減を見込んでいます。
雑収入	174	178	115	△ 63	2011年度末の定年退職者のみを前提に予算計上しているため、私学退職金財団の交付金収入は前年度比減少の予算となりました。
前受金収入	801	805	799	△ 6	2012年度入学者数を中学部140名、大学630名として予算化しています。
その他の収入	338	361	199	△ 162	
資金収入調整勘定	△ 979	△ 980	△ 903	77	
前年度繰越支払資金	2,588	2,588	2,843	255	
収入の部合計	8,147	8,194	8,115	△ 79	
支出の部					
科目	2010年度 予算	2010年度 決算(A)	2011年度 予算(B)	対決算比増減 (B)-(A)	2011年度当初予算の内容
人件費支出	3,069	3,067	2,984	△ 83	2011年度は、定年退職者のみを前提に退職金支出を計上しており、2010年度は選択定年制による退職者が多かったことから、減少の予算となっています。
教育研究経費支出	1,083	1,067	1,183	116	ホルブルック館建設に伴う支出増を予定しています。
管理経費支出	284	284	297	13	社交館の耐震工事に伴う修繕費の増加等によるものです。
借入金等利息支出	29	29	26	△ 3	約定返済に伴う借入金元本の減少によるものです。
借入金等返済支出	122	122	122	0	
施設関係支出	108	100	385	285	ホルブルック館の新築338百万円に加えて、社交館の耐震化・サッシ改修や防火設備等設置工事費用などを予算化しています。
設備関係支出	87	92	505	413	ホルブルック館関連設備24百万円のほかに、大学教室の情報設備等やネットワーク関連設備の更新360百万円といった規模の大きな支出を予定しています。
資産運用支出	449	435	67	△ 368	ホルブルック館建設を予定しているため、2010年度に行った減価償却引当特定資産の積増し(300百万円)は予定していません。
その他の支出	203	196	171	△ 25	
資金支出調整勘定	△ 132	△ 124	△ 419	△ 295	
次年度繰越支払資金	2,843	2,921	2,792	△ 129	
支出の部合計	8,147	8,194	8,115	△ 79	

(表7)消費収支予算書

(単位:百万円)

消費収入の部					
科 目	2010年度 予算	2010年度 決算(A)	2011年度 予算(B)	対決算比増減 (B)-(A)	2011年度当初予算の内容
学生生徒等納付金	4,284	4,283	4,196	△ 87	寄付金に現物寄付が含まれることを除き、資金収支計算書と同様です。
手数料	91	97	90	△ 7	
寄付金	80	73	73	0	
補助金	548	562	530	△ 32	
資産運用収入	111	115	111	△ 4	
事業収入	110	109	62	△ 47	
雑収入	174	178	115	△ 63	
帰属収入合計	5,399	5,420	5,178	△ 242	以上の要因により、2010年度比242百万円の減を見込んでいます。
基本金組入額合計	△ 300	△ 262	△ 675	△ 413	主としてホルブルック館建設などに伴う基本金組入を予定しています。
消費収入の部合計	5,099	5,157	4,503	△ 654	消費収入の部は前年度比654百万円減の4,503百万円を見込んでいます。

消費支出の部					
科 目	2010年度 予算	2010年度 決算(A)	2011年度 予算(B)	対決算比増減 (B)-(A)	2011年度当初予算の内容
人件費	3,019	3,016	2,981	△ 35	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。
教育研究経費	1,381	1,367	1,472	105	資金収支計算書に減価償却費(289百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
管理経費	337	337	347	10	資金収支計算書に減価償却費(50百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	29	29	26	△ 3	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	12	9	12	3	
消費支出の部合計	4,779	4,761	4,838	77	以上の要因により、前年度比77百万円増の4,838百万円を見込んでいます。

当年度消費収入 (△支出)超過額	319	396	△ 335	△ 731	これにより、2011年度の消費支出超過額は、335百万円の支出超過を予定しています。
前年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 621	△ 621	△ 301	320	
基本金取崩額合計	—	2	—	△ 2	
翌年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 301	△ 222	△ 637	△ 415	
帰属収支差額	619	658	339	△ 319	



学校法人 神戸女学院

〒 662-8505 西宮市岡田山 4-1 電話 0798-51-8508 (経理課)
<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>